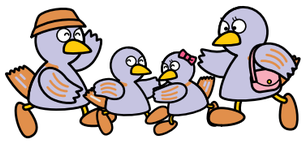


埼玉県のマスコット「コバトン」

人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）

埼玉県教育委員会

彩の国
埼玉県

人権感覚育成プログラム
増補版（学校教育編）

「自分」
「人」
彩発見プログラム

埼玉県教育委員会

「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」の発刊にあたって

「人権の世紀」と言われる２１世紀になって１０年以上が経過し、国内外で人権教育に関する様々な取組が行われています。国連は「人権教育のための世界計画」に基づき、平成１７年から初等中等教育に焦点を当てた第一フェーズ（平成１７年～平成１９年）を経て、高等教育における人権教育を推進する第二フェーズ（平成２２年～平成２６年）に世界的規模で取り組んでいます。

現在、わが国では、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」等に基づき、様々な取組が行われており、文部科学省が設置した「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」は、平成２０年３月に「人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］」を公表しました。

こうした人権を取り巻く国内外の動向を踏まえ、埼玉県教育委員会では「埼玉県人権施策推進指針（平成２４年３月改定）」、「埼玉県人権教育推進プラン」に基づいて、積極的に人権教育の推進に努めております。

特に人権教育においては、人権や人権擁護に関する基本的な内容と意義についての知的理解とともに、人権がもつ価値や重要性を直感的に感受し、それを共感的に受け止めるような価値志向的な感覚である人権感覚の育成が極めて重要です。

そこで、本県では、児童生徒の人権感覚を育むため、授業の中で９つの視点に基づいた体験活動や参加体験型学習を組み入れた「人権感覚育成プログラム（学校教育編）」を平成２０年３月に開発しました。

幸いにも多くの皆様の御理解をいただき、このプログラムは広く学校において活用され、児童生徒の豊かな人権感覚の育成に寄与しております。

さらに、「教科の中でも活用できるプログラムを」という教職員の要望に応えるため、平成１９年度にプログラム開発委員を務められましたRE Learning代表秦野玲子先生に御指導を賜るとともに、県内の文部科学省人権教育総合推進地域や人権教育研究指定校での研究成果を生かし、「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」を作成しました。

この「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」が各学校で広く活用され、児童生徒が人権について理解するだけでなく、人権感覚を培うことで、自分の人権を守り、他の人の人権を守ろうとする意識や意欲の向上を図り、人権問題の解決に向けた実践行動につながるよう願っております。

おわりに、本書の刊行にあたり、御協力いただきました関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成２５年３月

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課長
須　藤　一　郎

目　　次

○　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）発刊にあたって

第１章　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）作成について …… 1
　1　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）の作成について …… 2
　2　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）の活用について …… 5

第２章　事例編　人権感覚育成のためのプログラム …… 7

1　小学校低学年のプログラム
　①　「１年生を　むかえよう」（第２学年）　【生活科】 …… 8
　②　コラム …… 11

2　小学校高学年のプログラム
　①　「話し合うために大切な言葉（対立と協調）」（第５学年）　【国語科】 …… 12
　②　「家庭内の男女共同参画とは」（第５学年）　【家庭科】 …… 14
　③　コラム …… 19

3　小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画への位置付けについて
　①　小学校人権教育全体計画（例） …… 20
　②　小学校年間指導計画（例） …… 21

4　中学校のプログラム
　①　「マンション耐震化工事　費用負担の割合、どうする？」（第３学年）
　　【社会科】 …… 23
　②　「缶のまわりの長さを求めよう」（第３学年）　【数学科】 …… 26
　③　「新しい大陸に向けた航海」
　　コンパシート［羅針盤］ヨーロッパ評議会・福田弘訳**を参考にして**（第１～３学年）
　　【特別活動】 …… 32
　④　コラム …… 40

5　中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画への位置付けについて
　①　中学校人権教育全体計画（例） …… 41
　②　中学校年間指導計画（例） …… 42

6　高等学校等のプログラム
　①　「地域紛争～パレスチナ問題～」（第３学年）　【政治・経済】 …… 43
　②　「男女共同参画の視点に立ったルール決め」（第１学年）　【 保健体育科 】 …… 46

7　高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画への位置付けについて
　①　高等学校等人権教育全体計画（例） …… 49
　②　高等学校等年間指導計画（例） …… 50

人権感覚育成プログラム（学校教育編）活用対応表 …… 51

○　参考文献 …… 54

第 1 章

人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）作成について

1　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）の作成について

「人権感覚育成プログラム（学校教育編）」（以下、「平成２０年版プログラム」）では、人権感覚を児童生徒に十分に身に付けさせるための指導方法の工夫・改善として、「協力的」「参加的」「体験的」な学習の重要性が強調され、体験活動を中核としたアクティビティーを取り入れている。

各学校では、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」（３ページの図）に基づいて、「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動」がとれるような児童生徒の育成を人権教育の目標と定め、人権に関する知的理解とともに人権感覚を育む取組を実践してきた。

平成２０年版プログラムでは、埼玉県教育委員会が独自に作成した「人権感覚育成のための視点」（４ページの表）により、人権感覚を育成するための９つの視点を取り上げ、児童生徒の発達段階を考慮し、３６事例を提示している。

人権教育については、「平成２４年度指導の重点・努力点」の中で、「教育活動全体を通じて、組織的、計画的に推進する」こととしており、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のみならず、各教科においても平成２０年版プログラムを活用できることが望ましい。

しかしながら、各教科の中で平成２０年版プログラムを活用・実践しようとする場合、主に次の３つの課題があった。

（１）教科等で利用可能なプログラムを選択するための索引がない。

（２）計画的なプログラムの実施にあたり、年間指導計画の位置付けについて例示がされていない。

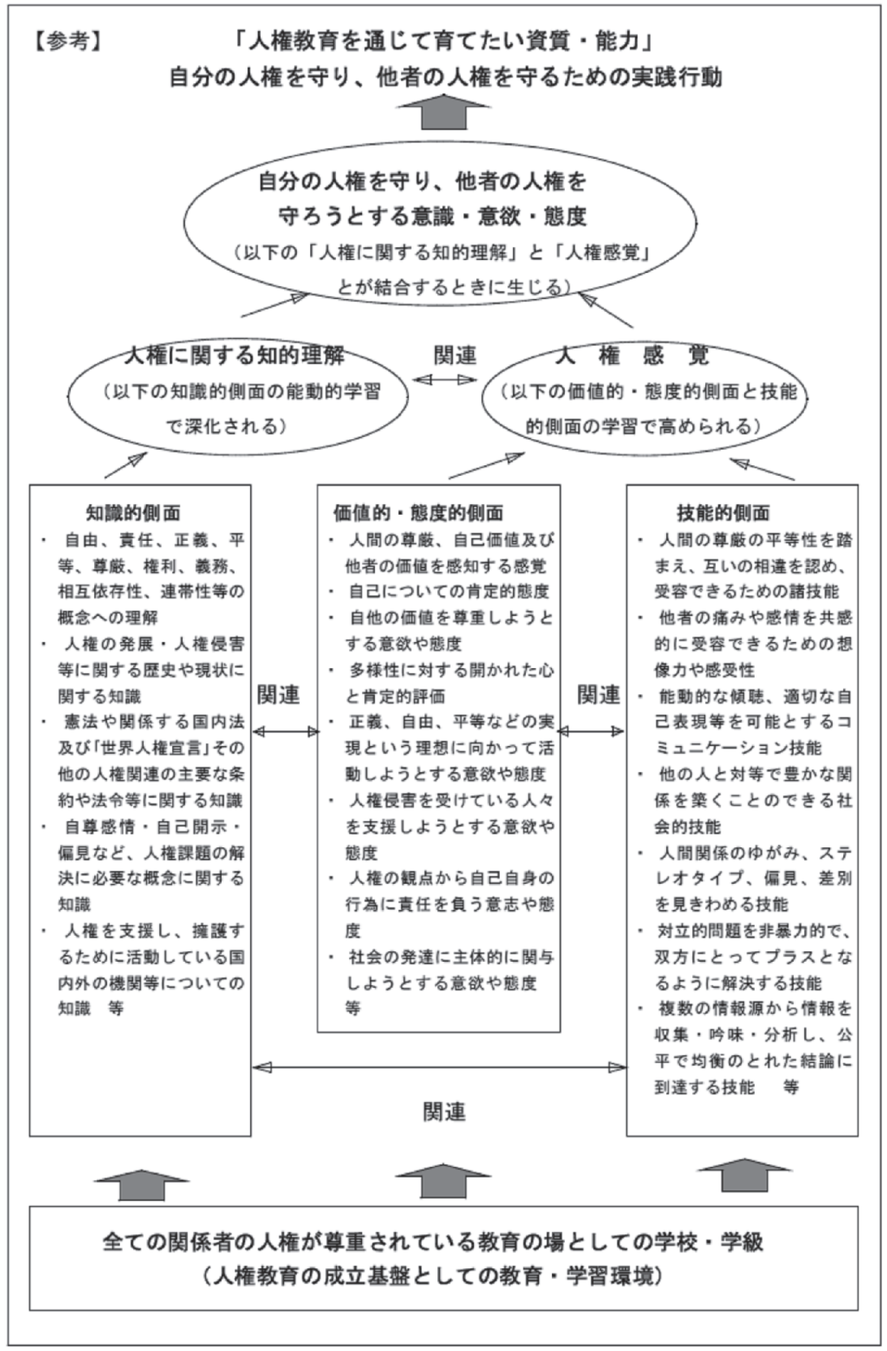
（３）プログラムの内容によっては、１単位時間で終わらないものもある。

以上のことから、これらの諸課題を解決し、児童生徒一人一人の人権感覚の育成を推進するとともに、教科におけるプログラムの活用の促進を図るため、「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」（以下、「増補版」）を開発した。

そのため、増補版は、次のような性格を有している。

（１）教科の授業で活用できるようにするため、教科のねらいと人権感覚育成のねらいの両方を示した新規プログラムである。

（２）教科等の年間指導計画に位置付けやすくするため、原則として１単位時間で完結するプログラムである。



出典　文部科学省　人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］（平成２０年３月）

表　人権感覚育成のための視点

視　　点	内　　容	概　　念
人間の尊厳・価値の尊重	自分及びすべての他者をかけがえのない人間として尊重しようとする。	人間の尊厳、想像力、感受性
生命尊重	自分及び他者の生命を尊重し、また、すべて生命あるものは互いに支え合って生きていることを知り、生命への畏敬の念をもつ。	生命尊重
自己尊重の感情	自分自身に対する誇りをもち、自分を価値ある存在として肯定的に認め、受け入れる。	セルフエスティーム、自己肯定感
共感と連帯感	他者の立場や思いに興味・関心をよせ、仲間同士として共通の目的をめざして努力しようとする。	他者への関心、協力、共生、共感、帰属意識
公平・公正	一方に偏ることなく、平等を重んじ、正しいことを貫こうとする。	自由、平等、規範意識、法の尊重、善悪の判断、正義感
多様性の尊重・共生	人々の文化、生き方、価値観などには多様性があることを知り、互いの違いを認め合いながら、共に平和に生きようとする。	多様性の尊重、異文化理解、偏見、共存共生
コミュニケーション能力	意見や気持ちを適切かつ豊かに伝え合い、分かり合える。	受容、傾聴、非攻撃的な自己主張、論理的合理的な表現、多様な表現方法、合意形成、プレゼンテーション能力
権利と責任	人間らしく生きるため、権利に基づいて行動し、その行動に責任をもつ。	自立、自己決定、義務、責任
参加・参画	よりよい社会の実現を目指し、他者と連携・連帯し、積極的に社会に参加・参画していこうとする。	連携、連帯、対話、合意形成、参加、参画、行動

出典　『平成２０年版人権感覚育成プログラム（学校教育編）』（平成２０年３月）

2　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）の活用について

増補版は、次の４つの内容で構成されている。それらの活用法は、以下のとおりである。

（１）新規プログラムについて

増補版では８つの新規プログラムを作成し、それぞれ教科名を示している。各学校においては、下の「アクティビティーを実施する際の留意事項」を必ず確認し、児童生徒の人権感覚の育成を効果的に行えるように留意すること。また、「平成２０年版プログラム」に掲載していた「第１章　理論編」を割愛しているため、人権感覚育成の必要性や人権感覚の定義、指導方法などについては、平成２０年版プログラム（１ページ～１２ページ）を参照すること。

（２）平成２０年版プログラムの活用対応表について

５１ページ以降に教科等で活用できる平成２０年版プログラムの活用のヒントとして、平成２０年版プログラムの活用対応表を掲載した。各学校においては、教科等の全体計画や年間指導計画に人権教育の視点を位置付ける際の参考にすること。

（３）「コラム」について

人権感覚育成のために参加体験型学習を教科等で実施する際のヒントを「コラム」で示した。これらを参考に、学校の実態に応じて、教育活動全体を通して人権教育を推進すること。

（４）人権教育全体計画及び年間指導計画について

平成２２年３月に刊行した『人権教育資料［指導実践の手引］』では、人権感覚育成プログラムを人権教育全体計画や年間指導計画に位置付けた参考例を掲載しているが、今回の増補版の刊行にあたっては、それらに一部改良を加えて掲載した。

【アクティビティーを実施する際の留意事項】

○　注意深く計画を立て、多くのことを詰め込みすぎないようにする。

○　児童・生徒が自由に探求、発見したり、互いに反応し合い、意見を分かち合ったりできる雰囲気を醸成する。

○　「誰もが責任をもって参加する」、「自分の意見を発表する」、「他者の意見を傾聴する」、「意見を言いたくないと感じていることがらについては、発言を強いられない」など、アクティビティーのための基本的原則をあらかじめ、児童・生徒に共通理解させておく。

○　アクティビティーでの指示はわかりやすく説明する。

○　教師は、学習のねらいや習得すべき知識等に言及するなどして、児童生徒が直接体験して「驚き、気づき、納得する」感動や衝撃を損ねてしまうことがないようにする。

○　ロールプレイなどが終わった時点で、ふり返りや話し合いに入る前に、児童・生徒が演じていた役割から抜け出すための時間を十分とり、笛や手をたたく音などで現実の自分に戻れるようにする。

○　「ふり返り」では、アクティビティーを通して、どんなことを感じ、学習したのかなどについて、できるだけ率直に感情や意見を自由に出させる。また、学んだことについて、また、それが自分たち自身の生活や社会などとどのような関連があると考えるか、などについて話し合わせる。

『平成２０年版人権感覚育成プログラム（学校教育編）』（平成２０年３月）　ｐ１２　再掲

第 2 章

事 例 編

人権感覚育成のための
プログラム

小学校第２学年
（生　活　科）

１年生を　むかえよう

ねらい

小学校に入学して一年。自分達が入学した頃を思い出し、新しい１年生が安心して学校生活を送ることができるように、相手の立場に立って考えることの大切さを学ぶ時期である。入学したばかりの１年生の学校生活に対する不安を取り除き、早く学校に慣れるよう、先輩の２年生として１年生を迎えるための活動を学習する。この時間では、１年生に対してどのように自己紹介をすれば良いのか、昨年大切に育てたアサガオの種を贈るという体験を通して児童に考えさせる。「考える」「話す」「聞く」という、基本的なコミュニケーション能力を育てる。

◆◆関連する視点◆◆
コミュニケーション能力
◆◆準備するもの◆◆
筆記用具・課題解決シート
昨年度育てたアサガオの種

アクティビティーの実際

導　入（10分）

２年生になって、挨拶をしたり、だれかに何かをしてもらうためにお願いしたりできることを確認し、入学したばかりの１年生の頃どうだったかを思い出す。

① １年生の頃、学校のみんなにどんなことをしてもらったのか、思い出す。
② ①をしてもらった時、どんな気持ちだったか思い出し、何人かが発表する。
③ ２年生になって、自分がどんな気持ち、どんな態度で１年生に自己紹介し、アサガオの種を贈れば良いのか考えさせ、本時の課題につなげる。
④ 「まず、全員で大きな声で挨拶をしてみよう。」
※ みんなの前で発表する時、元気よく、発声練習のつもりで。

展　開（30分）

ロールプレイ「１年生をむかえよう」を演じる。

① あらかじめ決めておいた児童に、ロールプレイを演じてもらう。
※ 代表の児童には、あらかじめ練習させておくとよい。
② 「元気なたろう」「おとなしいじろう」「明るい花子」「すこしおこったさくら」を演じてもらう。
③ ロールプレイを見てワークシートにまとめ、気付いたこと、誰の態度が良いか、なぜ良いと思ったのか、自分が１年生だったらどんなことを思うか等を数人に発表させる。
④ １年生が安心できる自己紹介とは、どんなものなのか考え、話し合う。
⑤ 一人一人がみんなの前で自己紹介し、アサガオの種を贈る練習をする。

ふり返り（5分）

ふり返り

① まとめとして、「考える」「話す」「聞く」ことの大切さを伝え、お互いに気持ちの良いコミュニケーションをとれるようにする。
② １年生が安心して学校生活が送れるように、他にどんなことをしてあげたいか考える。

①「１年生を　むかえよう」（第２学年）　【生活科】

ロールプレイ

「１年生を　むかえよう」

たろう　こんにちは。
ぼくは　２年１くみの、山田　たろう　です。
アサガオのたねです。きれいにさかせてください。

元気に

じろう　こんにちは。
ぼくは　２年１くみの、すずき　じろう　です。
アサガオのたねです。

うつむいて

花子　こんにちは。
わたしは　２年１くみの、さとう　花子です。
アサガオのたねです。たいせつにそだててね。

明るく

さくら　こんにちは。
わたしは　２年１くみの、　小林　さくらです。
アサガオのたねです。どうぞ。

すこし
おこって

このシートについて（教員用）　このシートは黒板に掲示し、児童がロールプレイの内容を理解しやすいようにする。演じてもらう児童には、「たろう→元気に」、「じろう→うつむいて」、「花子→明るく」、「さくら→すこしおこって」演じるように打ち合わせておく。

人権教育上の配慮　児童に演じてもらう前に、ロールプレイに協力してもらっていることについて学級全体に説明をする。特に「おとなしいじろう」「すこしおこったさくら」役の児童に見ている児童が心無い言葉をかけることが考えられるので、演者に対してからかったり、笑ったり、悪口を言うなどしないように声をかけたい。

ロールプレイが終了した時点で、役割が終わったことを全員に告げる。その際「パンッ」と手をたたくなど、児童が気持ちを切り替えやすい合図を入れる。

演じた児童には、決められた役割をやりとげたことを称賛し、「いつもの○○さんに戻りました。ありがとう。」と声をかける。

ワークシート

「１年生を　むかえよう」

２年　　くみ　なまえ

① ４人のじこしょうかいで、気づいたことを　かきましょう。

◎：たいへんよい　　○：よい　　△：もうすこし

	こえの大きさ	かおのようす	はなすはやさ	かんじたこと（ことばでかく）
たろう	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	
じろう	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	
花子	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	
さくら	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	

このワークシートのねらい（教員用）　ここでは「たろう」「じろう」「花子」「さくら」の自己紹介の様子を見て気付いたことを視点別に書かせたい。また、それぞれの自己紹介を聞いて、相手はどんなことを感じるのか考えさせたい。

人権教育上の配慮　２年生は、思っていても書き出せないこともあるので、書き込めていない児童に対して、個別に想起を促す声かけをする。

② あなたは　１年生に、どんなふうにじこしょうかいを　したいですか。

こえは？

かおは？

はなすはやさは？

このワークシートのねらい（教員用）　１年生が安心するような、気持ちのいい自己紹介をするにはどうしたらいいのか考え、本授業のまとめとする。自分の態度をどうしたらいいのか、相手はそれをどう受け取るかまで考えさせたい。

人権教育上の配慮　展開⑤で各自が練習する際、もともと声の小さい児童に対しては、「前より、声が大きくなったね。」というように、すこしの成長をみんなで褒め合えるように声をかけていくようにする。

コラム　小学校　１～３年生

人権感覚育成のためのヒント

体験的な学習内容を含む授業については、工夫次第で人権感覚育成のためのプログラムとして実践できる視点を含んでいる。本県では、価値志向的な感覚である人権感覚をそのまま教育の対象と捉えることは容易ではないことから、間接的に人権感覚を育成するのに有効であると考えられるいくつかの視点を「人権感覚育成のための視点」と位置付け、人権感覚育成プログラムを作成した。以下、工夫することにより実践できる事例を挙げてみた。

１年生　国語

教材　「おおきなかぶ」
視点　コミュニケーション能力

○この学習では、場面の様子を思い浮かべながら、登場人物の会話や動作を想像し、それをグループで話し合うことなどが求められる。自分の考えを言葉や動作化により相手に伝え、相手の考えを理解しようとするコミュニケーション能力の育成が図られる学習内容である。また、ユニークな表現をした児童を認める声かけをすることで、同じ文章でも、人によって様々なとらえ方があることを知り、多様性の尊重にもつながる学習内容である。

２年生　国語

教材　「もののしくみをせつめいしよう」
視点　コミュニケーション能力

○順序立て、論理的な表現で説明文をつくる学習である。合理的、科学的なコミュニケーション能力の基礎を培う内容となっている。説明文の学習も、グループ内で発表したり、全員の前で発表したりと場の工夫をすることで、コミュニケーション能力を高めるための効果的な学習となる。

３年生　社会

教材　「古くから伝わるものや行事」
視点　多様性の尊重・共生

○地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、あるいは昔のくらしの様子などの学習に、体験的な学習やゲストティーチャーによる話などを取り入れることにより、児童一人一人が様々な思いを抱くことができる。そこから、話合い活動や発表活動に発展させ、多様性の尊重や共存共生などの基礎的な資質を養う学習につなげていくことができる。

３年生　理科

教材　「チョウを育てよう」
視点　生命尊重

○モンシロチョウの卵や幼虫を採集し、飼育しながら継続観察していく中で、生物を愛護する態度を育てるとともに、生命尊重の精神の育成へとつなげていく。具体的には、飼育活動という体験を通して感じた個々の児童の考えを発表する活動により、様々な思いを知るとともに、友だちの意見に共感できる態度を育成していくことができる。

小学校第５学年
（国　語　科）

話し合うために大切な言葉（対立と協調）

ねらい

自分の思いや考えを十分に相手に伝えられなかったり、相手の思いや考えを十分に理解できなかったりして人間関係に悪影響を及ぼすことが、児童のまわりで起きている。そこで、国語科の学習として児童一人一人が豊かな言葉の使い手となり自己表現力やコミュニケーション能力を育てるとともに、問題解決に向けて対立するのではなく、相手を尊重しながら協調して話し合い、互いが納得する解決方法を見出そうとする気持ちを育てる。

◆◆関連する視点◆◆
コミュニケーション能力
共感と連帯感
◆◆準備するもの◆◆
筆記用具・ワークシート
教科書・辞書・名刺カード

アクティビティーの実際

導　入（10分）

アイスブレーキング「一（ひと）文字使って紹介します！」
〇友達を紹介し合い、雰囲気を和らげるとともに、グループ内の役割を決める。
＜方法＞
① あらかじめ、１グループ３～４人のグループをつくっておく。
② 左隣りの児童を紹介するために、名前の始めの一文字で始まる「プラス思考で表現する言葉」を考え、名刺カードに記入する。
③ 時計回りにグループ内で友だちを紹介し合う。

例）うめやま　けんじ
「美（う）つく）しい心と健（けん）康な体の持ち主のうめやまけんじさんです。」

※ 児童の状況によって、姓のみ、名のみでもよいことを告げる。
④ 司会、記録係を決める。
※ グループは学級の実態に応じて意図的につくることもある。

展　開（30分）

1　話合い「対立と協調」
① 「対立」という言葉から何をイメージするかを考えて発表する。
② 今までに対立した経験を想起させて、ワークシートに記入する。
　1）どんな出来事であったのか。
　2）対立していた時の自分の気持ちはどうであったのか。
　3）対立していた時の相手の気持ちはどうであったのか。
　4）その対立はどのようにして終わったのか。
③ グループになり、グループ全員が自分の経験を発表する。各自発表内容を項目ごとに色分けした付箋紙に書くか、記録者が記入し、ホワイトボードや画用紙にまとめていく。

2　「協調して話し合うために」
① 教科書「話し合うために大切な言葉」を読んだ後、話し合う時には、互いの意見をしっかり聞き合うために、1）～3）のような「使いたい言葉」があることを知る。
　1）たずねる言葉　2）「理解した」ということを伝える言葉
　3）話に区切りをつけ、次に進める言葉
② 対立していた時の友達の気持ちを聞き合い、対立を解決させるためのよりよい方法についてグループで話し合う。
③ グループで話し合った解決の方法を具体的にワークシートに記入する。解決策を全体で発表する。
※ 相手の人柄と意見を区別すること

ふり返り（5分）

ふり返り
① 「一（ひと）文字で紹介します！」で楽しんで友達を紹介することができたか。
② 対立することについて自分をふり返ることができたか。
③ 「話合いのための大切な言葉」について理解することができたか。
④ 話合いのルールやマナーを守って進んで学習することができたか。

ワークシート　「話し合うために大切な言葉（対立と協調）」

1　「対立」という言葉から何をイメージするか考えましょう。

このワークシートについて（教員用）　本時の導入である。児童に自由に記入させたい。
人権教育上の配慮　児童の考えや思いを受け入れるとともに、想起できない児童には辞書を使ってその意味を調べたり自分自身の経験から想起したりするよう支援する。

2　今までの自分の経験をふり返り、友達や家族と対立したことについて書きましょう。

どのような出来事での対立でしたか。	
対立していた時の自分の気持ちはどうでしたか。	
対立していた時の相手の気持ちはどうだと思いましたか。	
その対立はどのようにして終わりましたか。	

このワークシートについて（教員用）　自らの経験を想起する活動であり、次に行う話合いのための材料となるものである。そのため、十分に時間を確保し、自分自身に正対させて考えさせたい。
人権教育上の配慮　対立にかかわっている人の名前は記号等にすることを確認する。また、出来事の欄には事実のみを記入するように声をかける。

3　グループの友達の発表を聞いて、対立を解決するためのよりよい方法を考えましょう。

このワークシートのねらい（教員用）　話合いをもとに対立を解決する方向性を具体的に書く。
人権教育上の配慮　話合いのルールやマナーを守らせるとともに、友達の考えに対して否定的な受け取り方はしないように指導する。

4　学習したことをふり返りましょう。

項　　目	自己評価
楽しんで友達を紹介することができた。	4　3　2　1
対立の解決方法について考えることができた。	4　3　2　1
「話合いのための大切な言葉」について知ることができた。	4　3　2　1

友達とともに学習して良かったことを書きましょう。

このワークシートのねらい（教員用）　自らの学習活動をふり返らせるとともに、友達とかかわりながら学習できたことについても記入させたい。自己評価は数字ではなく、言葉に置き換えてもよい。
人権教育上の配慮　解決策が具体的に出なくても、話合いの態度、プロセスなどで自らの学習活動を肯定的にふり返らせる。

小学校第５学年
（家　庭　科）

家庭内の男女共同参画とは

ねらい

５、６年生で学習する家庭科の「Ａ家庭生活と家族」では、家庭における自分や家族の生活を支える仕事について学習する。家庭でどのように生活しているかに関心を持ち、主体的に家族に協力する意欲や態度を身に付ける。社会の一番小さな単位は家庭であることから、家庭の一場面を取り上げて、性別による固定的役割分担意識について気付き、認識を深め、男女平等を基盤として共に参加・参画し合う男女共同参画社会の実現に向けて考えさせる。

◆◆関連する視点◆◆
参加・参画

◆◆準備するもの◆◆
筆記用具・事前アンケート
ワークシート１、２

アクティビティーの実際

導　入（5分）

アイスブレーキング
※「バースデーチェーン」や「もうじゅうがりゲーム」、その他のカード合わせ、文字合わせ等を実施し、そのうえで、グループ作りと代表者を決める。
＜やり方－「バースデーチェーン」の場合＞
①　性別に関係なく、生年月日の早い順に起点を決めて円形に並ばせる。
②　生年月日の早い順に３人ずつ区切り、グループを決める

展　開（35分）

事前指導としてアンケート「家庭における役割」を実施、集計結果をまとめておき、ワークシート２に記入して配布するか、児童に記入させる。
★学級内に山田という児童がいる場合には名称を変更して使用する。

ロールプレイ『山田家のある一日』

①　ワークシート１　『山田家のある一日』を読む。
②　ワークシート１の「ロールプレイ前に感じたこと」を記入する。
③　３人一組のグループで、役割（母、父、子供）を決める。
④　母役、父役に対して、未来さんが「えー」と絶句した後の会話の続きを考える。
⑤　母役、父役は、向かい合い「はじめ」の合図から「やめ」の合図までロールプレイを行う。役割を替えて３回行う。
⑥　ロールプレイ後の感想を記入する。
⑦　ロールプレイをふり返り、それぞれの役割を通して、各グループで話し合う。その後全体に発表する。★それぞれの役割を全員が体験できるようにする。
⑧　事前アンケート「家庭における役割」へ回答したことを通して、互いの感想などを話し合う。
⑨　ワークシート２　家庭における役割の集計結果について気付いたことや感想などを話し合い、暗黙のうちに性別によって偏っている家事がないか話し合う。

ふり返り（5分）

○　ワークシート２を用いて、家族それぞれが気持ちよく過ごすために、自分は家庭の中で何ができそうか、今日の活動を通して考え、家庭でやってみることを記述する。

(月)「家庭内の男女共同参画とは」（第５学年）　【家庭科】

事前アンケート「家庭における役割」　　5年＿＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

○　あなたは次の家事をどのくらい経験していますか。

	したことがある	月に一、二回	週一回以上
ア　果物の皮をナイフや包丁でむく。			
イ　洋服の取れたボタンをつける。			
ウ　風呂洗いをする。			
エ　洗濯物を取り込んだりたたんだりする。			
オ　お米をとぐ。			
カ　食べ終わった食器の片付けや食器洗いをする。			
キ　家の掃除をする。			

このワークシートについて（教員用）　事前アンケートを教師が集計しておき、ロールプレイ後、クラスの実態をワークシート２の表にして配布する。

第1章 第2章 事例編 小学校低学年のプログラム 小学校高学年のプログラム 小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 中学校のプログラム 高等学校等の全体計画及び年間指導計画 高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画 プログラムの活用対応表

ワークシート１　『山田家のある一日』

（１）山田家の現状

山田家は、母：和美（３７歳、会社員）父：圭一（４１歳、会社員）子供：未来（１２歳、小学６年生）の３人家族である。

お母さんの朝は、起床後、新聞をとることから始まり、コーヒーを入れ、朝食の準備をします。朝食が出来上がる頃に、お父さんと未来を起こし、全員そろうまでの時間を使って洗濯物を干して仕事に行きます。

お母さんは日頃から、家庭生活に多少不満を持っています。

夕方仕事を終え、疲れてくたくたのお母さんは、買い物をして帰宅。まず、ベランダの洗濯物を取り込み、夕食の準備にかかりました。

（２）その日の会話

父：ただいま
母：おかえり、お父さん。洗濯物、そこに取り込んだから、たたんでくれる？
父：え～、疲れているから……
母：そう。じゃ、お風呂を洗って入ったら。
父：なんだよ、おれは疲れているんだよ！　風呂は朝のうちに洗っておけよ。
母：じゃ、未来やってくれる？
子：え～……

（３）ロールプレイ前に感じたこと

・お母さんは、どんな気持ちだと思いますか。

・お父さんは、どんな気持ちだと思いますか。

（４）ロールプレイ後の感想

・お母さんの役割をやってみて、どのような気持ちがしましたか？

・お父さんの役割をやってみて、どのような気持ちがしましたか？

・家族それぞれが気持ちよく過ごせるためにどうしたらよいと考えますか。あなたがやろうと思うことを書いてみましょう。

このワークシートについて（教員用）　ロールプレイは、本シートをもとに場面設定を十分説明したうえで実施する。（３）は、ロールプレイ前に、会話を読んだだけで記入する。記入後、ロールプレイを行う。

人権教育上の配慮　３つの役割をそれぞれ体験できるような時間配分とし、男女の役割にこだわらないよう促す。

人権教育上の配慮　一人一人の個性や能力が発揮できる社会の実現のために、それぞれがどんな気持ちなのかを考えさせる。

②「家庭内の男女共同参画とは」（第５学年）　【家庭科】

第１章　第２章 事例編　小学校低学年のプログラム　小学校高学年のプログラム　小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画　中学校のプログラム　中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画　高等学校等のプログラム　高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画　プログラムの活用対応表

ワークシート２　家庭における役割（集計結果とふり返り）

5年＿＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

（１）クラスの男女別集計結果

	女子			男子			全体		
	したことがある	月に一、二回	週一回以上	したことがある	月に一、二回	週一回以上	したことがある	月に一、二回	週一回以上
ア　果物の皮をナイフや包丁でむく。									
イ　洋服の取れたボタンをつける。									
ウ　風呂洗いをする。									
エ　洗濯物を取り込んだりたたんだりする。									
オ　お米をとぐ。									
カ　食べ終わった食器の片付けや食器洗いをする。									
キ　家の掃除をする。									

このワークシートについて（教員用）　ロールプレイ後の感想やクラスの集計結果をもとに、気付いたことなどを話し合い、家庭でやってみることを決め、発表する。

（２）グループで、ロールプレイの感想や集計結果について、次の視点から考えてみましょう。

・家族それぞれが気持ちよくすごすために、今後のあなたの役割は何ですか？　どんなことができますか？

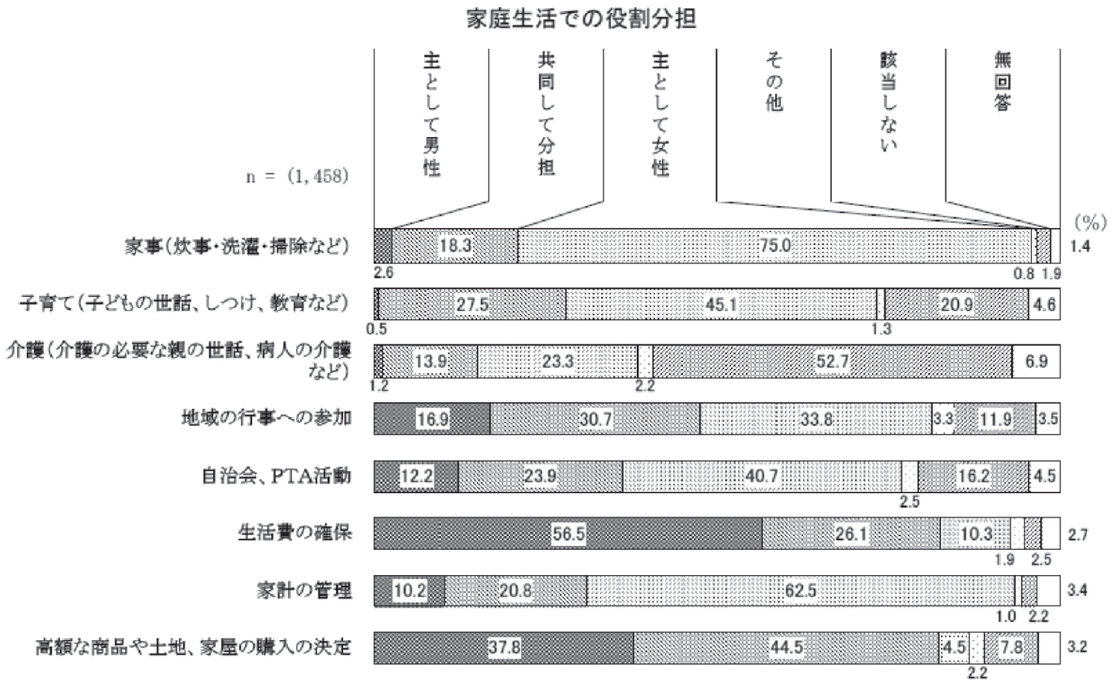
・考えたことを実際に家でやってみましょう。

実践とふり返りのシート

自分が家庭でやってみることを下の表に記入し、実際にやって、ふり返ってみましょう。

やってみること	やってみて気付いたこと・感想、家族の反応など
○	
○	
○	

資　料　　平成２１年度「男女共同参画に関する意識・実態調査」～家庭生活について～



埼玉県県民生活部男女共同参画課 http://www.pref.saitama.lg.jp/site/danjyo-isikityousa/ホームページより

〔参考〕「猛獣狩りゲーム」

○教師「猛獣狩りに行こうよ！」
　児童「猛獣狩りに行こうよ！」（元気よく、手を上にあげて）
　教師「鉄砲だって持ってるぞ」
　児童「鉄砲だって持ってるぞ」
○以下、ヤリだって…と続け、最終的に、教師が動物の名前を提示し、その語の字数で児童がグループをつくる。

コラム　小学校　４～６年生

人権感覚育成のためのヒント

人権感覚の育成には、様々な授業に「人権感覚育成のための視点」を位置付け、実践することが重要である。授業を工夫し「協力的」「参加的」「体験的」な活動を取り入れることで、どの教科でも、人権感覚を育成することができる。以下、工夫することにより実践できる事例を挙げてみた。

４年生　体育

教材　「マット運動」
視点　多様性の尊重
○自分ができる技を組み合わせた連続技を考え、発表する。その発表の場で、工夫したところや、見ていて良いと思ったところなどをお互いに発表し、意見交換する。高度な技の演技や、簡単な技でも工夫している演技などを評価する中で、それぞれの良さを認め合えるようにすることから、多様性の尊重へと発展させていく。

５年生　図工

教材　「見つけたことを話してみよう」
視点　多様性の尊重・共生
○鑑賞教材である。友達の作品を鑑賞し、それぞれの持つ良さを感じ取り「工夫が感じられる点」、「良いと思ったところとその理由」を発表する。また、作者がどんな思いでその作品を作成したかを想像するのも、楽しい学習となる。最後に、作者自身が作品の構想や工夫について発表することも大切である。

６年生　算数

教材　「体積」
視点　多様性の尊重・共生
○体積を求める学習の応用問題を行う。それぞれの児童が、様々な解き方で立体の体積を求め、そのやり方を発表する中から、それぞれの考え方の良さを知る。解き方について質問したり、答えたりする中から、友達の工夫を知り、さらには友達の良さを改めて知ることがでる。解答が間違っていても、発表の仕方をほめるなど、教師が声かけの工夫をすると良い。

６年生　音楽

教材　「木星（鑑賞曲）　風を切って（合奏曲）」
視点　共感と連帯感
○曲を鑑賞する中で、各パートでの楽器の役割や音色の重なり合いなどを知る。鑑賞する前に、それぞれの楽器で、好きな音を一斉に出させ、違和感を感じさせてみる工夫もできる。そこから、音色の美しい重なり合いにとって、それぞれの楽器の役割の大切さを知る。そして、実際に自分たちが合奏するときの、お互いの役割や協力の大切さについて、学習を発展させていく。

小学校人権教育全体計画（例）

○○小学校

・日本国憲法　・教育基本法　・学校教育法
・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
・人権教育・啓発に関する基本計画
・人権教育の指導方法の在り方について（第三次とりまとめ）
・埼玉県人権施策推進指針
・埼玉県教育振興基本計画
・埼玉県教育行政重点施策
・埼玉県人権教育推進プラン

学校教育目標

○よく学ぶ子（やるきいっぱい）
○思いやりのある子（やさしさいっぱい）
○体力のある子（げんきいっぱい）

○児童、地域の実態
・明るく素直な子が多い。
・自分の気持ちをうまく伝えることが苦手な子が多い。
・農業地域であるが、自然とふれあう機会が減ってきている。
○保護者、教師の願い
・相手の立場に立って物事を考えることができる。
・人の心の痛みや悲しさが分かる。
・自分で善悪の判断がしっかりできる。

埼玉県人権施策推進指針
○県民が主体となる人権教育
○生涯を通じた人権教育
○人権感覚を培う人権教育
○共生の心を醸成する人権感覚

埼玉県教育行政重点施策
○人権を尊重した教育の推進

教育委員会重点施策
○「自ら学ぶ力と豊かな心を育む教育・文化の創造」
・人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進

まちづくり新生計画
○安心して暮らせるいきいきしたまち
○人権に配慮した地域づくりを推進する
・人権教育の推進
①学校教育における人権を尊重する教育の推進
②家庭や地域における人権教育の推進
③同和教育の推進

学校経営の重点

人権教育の推進

人権教育目標

①人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒を育成する。
②集団における仲間づくりを通して、強い連帯感を育成する。
③差別に気付き、差別を許さない実践力を身に付けさせる。

人権教育の努力事項

①一人一人に存在感を持たせ、生き生きとした活動ができるようにする。
②認め合い、尊重し合える学級づくりをする。
③自由な発言ができ、だれとでも仲良く話し合える学級を作る。

関連を図る取組

・男女平等教育	男女相互理解、相互協力
・ボランティア福祉教育	社会に奉仕する精神の育成、福祉社会の実現
・特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導と必要な指導
・交流及び共同学習	障害のある児童との交流を通して、同じ社会を構成する一員であるという仲間意識の育成
・同和教育	同和問題を解決していこうとする児童の育成
・国際理解教育	外国の文化・伝統についての理解
・健康教育	エイズ、ハンセン病に対する正しい理解
・情報教育	人権尊重の視点に関する情報収集・情報発信

学年の重点目標

1年	2年	3年	4年	5年	6年
思ったことが言え、だれとでも仲良くする。	自由な発言ができ、だれとでも仲良く話し合える。	お互いの良さを認め合い、仲良く助け合える。	相手の立場を理解し、お互いに助け合える。	相手の立場、考え方を理解し、だれとでも仲良くできる。	差別に気付き、差別をしない、許さない仲間づくりをする。

学級経営の重点

○児童の実態を的確に把握し、子どもを大切にする指導
○児童が互いに認め合い、励まし合える学級づくり
○自分の思いや考えがはっきり言える学級集団の育成

各教科における人権教育の目標

国　語	文学作品などを通して、登場人物の心情に迫り、人間としての生き方を高める。	家　庭	家族の一員として生活を向上させようとする態度と実践力を身に付ける。
社　会	社会事例を正しくとらえ、追求する。人権問題を正しく理解し、差別を見抜く。	体　育	集団での運動を通して、協力性・連帯性を高める。
算　数	社会や自然との関わりを学び、集団の一員として自分なりに適切に行動する。	道　徳	生活の中での差別に気付き、正しい判断力と道徳的実践力を身に付ける。
理　科	基礎的概念・原理・方法を理解し、筋道立てて処理する力を身に付ける。	外国語活動	外国語を通じて、言葉や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
生　活	具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ自立への基礎を養う。	特別活動	望ましい集団活動を通して助け合い認め合う人間関係、正義感をもった行動力を育てる。 学校生活の向上発展を目指し、集団意識や実践力を高める。 小さな問題も皆の問題とし、仲間を大切にする心情を育てる。 共同の興味関心を追求し、自主性・連帯性・社会性を高める。
音　楽	音楽的表現などを通して美しいものを美しいと感じる豊かな感性を身に付ける。		
図　工	美しさを感じ取る豊かな感受性を身に付け、自己を表現する力を伸ばす。	総合的な学習の時間	班学習や地域の人々とのふれあいを通して人を思いやる心をもつ。

各人権課題への取組

○女　性	性別に基づく固定的な役割分担意識を是正し、人権尊重を基礎とした男女平等観を育む。
○子　ども	自他の権利を大切にし、社会の中で果たすべき義務や自己責任を果たす児童を育成する。
○高齢者	高齢者との交流の機会を通じて、尊敬や感謝の心を育む。
○障害者	障害のある人との交流の機会を通じて、誰もが住みやすい社会づくりについて理解する。
○同和問題	部落差別をなくしていくことのできる児童を育成する。
○外国人	異なる文化をもつ人々と共に生きていく態度を育成する。
○その他の人権課題	エイズやハンセン病に対する正しい理解、情報の収集・発信における個人の責任や情報モラルについての理解を深める。

生徒指導

○心豊かな児童の育成
○人権尊重を基盤とする好ましい人間関係の育成
○基本的生活習慣の育成
○健全な規範意識の育成

その他の取組

○朝の全校読書…豊かな心の育成
○植物の栽培、飼育活動…生命の尊さの体験
○人権月間…人権意識の高揚
○清掃活動…協力して働く大切さ
○通学班登校、あいさつ運動…好ましい人間関係の育成
○縦割り活動…異学年との交流

家庭・地域との連携

○学校教育の理解と啓発
○家庭・地域社会における望ましい人間関係の育成

小学校第2学年　年間指導計画（例）

◎人権感覚育成プログラム増補版【新規】
○平成２０年版人権感覚育成プログラム
＊人権教育資料「指導実践の手引」（平成２２年３月）

月	教科等	主題・題材名・活動	目　標	人権教育上の視点
4	学級活動	2年生になって	2年生になった喜びを感じるとともに、誰とでも仲良くできるようにする。	友達の良さを認め、助け合いながら、楽しく学校生活を送ろうとする態度を育てる。【子ども】
	生活	1年生をむかえよう◎	1年生に学校の様子を教えることにより、自分より小さい子に対して親切に接しようとする心情を育てる。	自分より小さい子に対して、思いやりの心をもち親切に接しようとする心情を育てる。【人間関係づくり】
	道徳	つらくても、がんばるよ！「がんばれポポ」	自分でやらなくてはならないことは、つらくても我慢して努力しようとする心情を育てる。	自分の目標に向かって、困難にも耐え、努力しようとする心情を育てる。【子ども】
5	道徳	きもちのよいあいさつ「まほうのあいさつ」	気持ちよい挨拶、言葉遣い、動作などに心がけて、誰にでも明るく接しようとする気持ちを育てる。	日常生活での挨拶や言葉かけが、自分と友達や周りの人々との豊かな人間関係を築いていく上で、大切であることがわかるようにする。【人間関係づくり】
6	生活	どきどきわくわく たんけんたい	町の自然や施設、人々の様子などに関心をもって、探検することができる。	町探検を通して、協力することの大切さに気付かせるとともに、積極的に地域の人々にかかわろうとする態度を育てる。【人間関係づくり】【個人の尊厳】
	道徳	生きものにやさしいこころで「元気でね、あげはくん」	やさしい心で身近な動植物に接しようとする心情を養う。	アゲハチョウの羽化の観察を通し、そのすばらしさを感じ取り、生き物を大切にしようとする心を育てる。【生命尊重】
7	道徳	きまりをまもる「めいわくダンプ」	みんなのことを考えて、公共のきまりや約束を守ろうとする心情を育てる。	わがままな心を抑え、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。【子ども】
9	生活	生きもの大すき	生き物探しや生き物の飼育を通して、生き物の生育環境や特徴に気づき、生き物への関心を深める。	生き物の飼育を通して、生き物の生態や成長の様子等に気づき、生き物に親しみを持つとともに、生命を大切にしようとする心を育てる。【生命尊重】
	道徳	いのちのたいせつさ「はねのないカブト虫」	精一杯生きている生き物に接して、生きていることの喜びに気付き、生命を大切にしようとする心を育てる。	生きることのありがたさと素晴らしさ、さらに、より良く生きようとすることの大切さを感じ取らせる。【生命尊重】
10	国語	きつねのおきゃくさま	場面ごとの人物の気持ちの変化を想像しながら楽しく音読し、絵本などを進んで読もうとする態度を育てる。	きつねの様子や気持ちを読み取ることにより、友の信頼を裏切らず、仲間を守る心情に気付かせる。【人間関係づくり】
	国語	サケが大きくなるまで	サケが大きくなるまでの苦労や、たくましく生きる姿を感じ取らせる。	ひたむきなサケの姿に感動し、生物の成長過程に興味と関心をもたせるとともに、命を大切にしようとする心を育てる。【生命尊重】
	道徳	あたたかいこころで「こころの花」	身近なお年寄りや身体の不自由な人に温かい心で接しようとする心を育てる。	親切は、する人もされる人もお互いに気持ちの良いものであることに気付かせ、自分だけでなく周りの人のことも考えて、思いやりのある心で接しようとする心情を育てる。【高齢者】【障害者】
11	道徳	あいての気もちを考えて「こうえんのおにごっこ」	身近にいる幼い人や弱い立場の人の気持ちを考え、親切にしようとする心情を育てる。	相手を自分に置き換え、温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。【子ども】
	生活	みんなでつくろうフェスティバル ○人権感覚育成プログラム5－①	自分たちのフェスティバルを企画し、必要な物を工夫し、協力して準備することができる。	自分たちのお祭りを通して、仲良く協力することの大切さに気付かせ、粘り強くやり通す能力を育てるとともに成就感を味わわせる。【人間関係づくり】【子ども】
12	国語	かさこじぞう	貧しくても思いやりの心を忘れないじいさまとばあさまの心の美しさを読み取ることができる。	じいさまとばあさまの、常に相手を思いやる心の美しさに共感し、明るく思いやり豊かに生きていこうとする心情を育てる。【高齢者】
	道徳	いちずなおもい「むくどりのゆめ」	枯葉にかかった白い雪を何度もたたいて落としている主人公の心のうちを話し合うことにより、優しい心の美しさを感じ取らせる。	人や動物に対する優しさなどの根底にある愛情を感じさせ、清らかな心情に目を向ける心を育てる。【子ども】
1	道徳	たすけ合う友だち「こまのプレゼント」	友達の良いところに目を向けて、互いに助け合っていくことの大切さがわかり、どんな場面でも友達を仲良くしていこうとする気持ちを育てる。	友達と助け合って、学校生活を送っていくことのすばらしさを理解させる。助け合いがお互いの信頼関係を生み出すことに気付かせる。【人間関係づくり】
2	生活	大きくなったじぶんをたしかめよう ○人権感覚育成プログラム3－①	自分の成長記録を作ることにより、様々な人々との係わり合いの中で成長してきたことに気づかせる。	成長過程で寄せられた愛情・思いやりなどに気づかせ、それらを他へも向けようとする心を育てる。【子ども】
	道徳	みんなのためにありがとう「ふえをふいて」	日頃お世話になっている人々に感謝の気持ちを持って接しようとする態度を育てる。	人々に支えられ、助けられて自分が存在するという認識に立って心からの尊敬や感謝の気持ちを持って接することの大切さに気付かせる。【人間関係づくり】
3	国語	アレクサンダとぜんまいねずみ	登場人物の気持ちの移り変わりを、場面の状況の変化とつなぎ合わせながら読むことができるようにする。	思いやりの心が、みんなの幸せにつながることに気付かせる。【子ども】
	道徳	大すきなかぞくのために「サバンナの子ども」	家族を大切にし、進んで家族のためになることをしようとする心情を育てる。	家族が優しい心でお互いの立場を考えて行動することにより、潤いのある人間関係が生まれ、愛情が育つことに気付かせる。【人間関係づくり】

小学校第5学年　年間指導計画（例）

◎人権感覚育成プログラム増補版【新規】
○平成２０年版人権感覚育成プログラム
＊人権教育資料『人権教育資料　指導実践の手引』（平成２２年３月）

月	教科等	主題・題材名・活動	目　　標	人権教育上の視点
4	道徳	心のブレーキ「くつそろえ」	自分の生活をふり返り、落ち着いて良く考えながら行動しようとする態度を育てる。	靴そろえができない誠也は忘れ物やちょっとした事故や失敗が多い。生活習慣の大切さに気付かせる。【自己尊重の感情】
5	理科	花から実へ（学校ファーム）	すべての生命のあるものは互いに支えあって生きていることを知り、生命への畏敬の念をもつ。	学校ファームに植えてあるカボチャの雄花雌花を観察し顕微鏡で花粉を見る。【生命尊重】
	家庭	家庭内の男女共同参画とは　◎	性別による役割分担意識について気付き、認識を深め、男女平等を基盤として共に参加・参画し合う男女共同参画社会の実現に向けて考えさせることができる。	自分や家庭を支える仕事について考え、家庭における役割シートを活用し、ロールプレイの感想について話し合う。【参加・参画】
	国語	人権作文	まちがいをなおすために、自分はどうしたら良いのか、どんな学級や社会にしていったら良いのかを考え行動しようとする態度を育てる。	書くことを通して、ふだん疑問におもったことをはっきりさせ、それについて自分の考えを確かめる。【人間の尊厳・価値の尊重】
6	道徳	母とながめた一番星	生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心情を育てる。	「あなたが生まれたとき、家族はどういう気持ちだったと思いますか」のアンケートをもとに「かけがえのない命」について話し合う。【生命尊重】
	特別活動	「地域のおまつり」	学年や学級を超えた異年齢集団の活動を通して、思いやりの心や協力を高め、温かい人間関係を育てる。	グループ内での役割を責任を持って取り組むとともに、下級生の面倒を見て活動する。【参加・参画】
	特別活動	こんなとき　どうする？ ○人権感覚育成プログラム5－②	身近にある差別や偏見に気付き、公平公正の大切さを理解させる。また、それを実現しようとする態度を育てる。	日常生活で起こりそうな場面のロールプレイを行う。自分たちの体験から、いじめ問題について考える。【公平・公正】
7	道徳	おもしろい花の種は、僕の心の中に	毎日の生活が多くの人たちのおかげで成り立っていることに感謝し、自分からそれに答えようとする態度を育てる。	自分たちの身の回りで世話をしてくれている人たちについて考え、その人たちに何ができるかを考える。【共感と連帯感】
9	道徳	由美の交換ノート	自分自身に対する誇りを持ち、進んで良いことをする態度や、人の嫌がることをしない態度を養う。	自分自身に対する誇りを持ち、進んで良いことをする態度や、自分をふり返り誠実に行動できなかった時の気持ちについて話し合う。【自己尊重の感情】
10	国語	話し合うために大切な言葉　◎	国語科の学習として児童一人一人が豊かな言葉の使い手となり自己表現力を育てるとともに、問題解決に向けて話し合うことで相手を尊重する態度を養う。	ふり返りや話し合い活動、発表することなどを通して、これからの学級における生活を豊かにするとともに、自己表現力、コミュニケーション能力を養う。【コミュニケーション能力】【共感と連帯感】
	国語	大造じいさんとガン	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景を想像豊かに読み取り、友達と交流しながら自分の考えを深める。	残雪の智恵と勇気の素晴らしさと大造じいさんの心の変化を読み取り文学のおもしろさに気付く。【コミュニケーション能力】
11	総合	雑木林に感謝しよう	より良い社会・環境をめざし他者と連携・連帯して積極的に社会に参加しようとする。	学年の仲間と協力して、雑木林の落ち葉はきを行う。【参加・参画】
	体育	バスケットボール	互いに協力し役割を分担して練習やゲームをするとともに、勝敗に対して公正な態度をとれるようにする。	チームに合った課題をもち、協力して練習やゲームができるようにする。【共感と連帯感】
12	道徳	「スリーデーマーチ」	外国の人々や文化、誇りについて知り、その国の人々と共存していることを理解し国際親善に努めようとする心情を育てる。	【多様性の尊重・共生】
1	体育	タグラグビー	互いに協力し合い、友達のプレーを認め合い、協力しようとする心情を育てる。	タグラグビー大会に向けて、協力して練習や試合を行う。【共感と連帯感】
2	国語	わらぐつの中の神様	登場人物の人柄や心の動きを読み取り、感想を持つ。その土地の風土や文化が感じられる作品を味わいながら読む。	どのような小さな生活の中にも心温まるつながりがあることを感じ取らせ、人を大切にし、力強く生き続けていくことのすばらしさを知る。【コミュニケーション能力】
3	道徳	おじいさんのあたたかな目	日々の生活が、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに答えていこうとする心情を養う。	お世話になった方々に感謝の手紙などを書いて、感謝の気持ちを表現する。【共感と連帯感】

第1章 第2章 事例編 小学校低学年のプログラム 小学校高学年のプログラム 小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 中学校のプログラム 中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 高等学校等のプログラム 高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画 プログラムの活用対応表

中学校第３学年
（社会科公民的分野）

マンション耐震化工事
費用負担の割合、どうする？

ねらい

公平・公正の視点から判断し、話し合う活動を通して公平・公正についての感覚や認識を深めさせるとともに、それらを尊重し、実現させようとする態度を育てるのが、この授業のねらいである。マンションの耐震化工事費用の負担割合をめぐり、誰もが納得のいく結論に近づくため、様々な立場の人になりきって話し合うことで、人権感覚育成の視点としての公平・公正に加え、共感と連帯感が不可欠であることに気付かせる。

◆◆関連する視点◆◆
共感と連帯感　公平・公正
◆◆準備するもの◆◆
筆記用具・ワークシート

アクティビティーの実際

導　入（15分）

あらすじの確認
・築３０年のマンションで全住民から耐震化工事の必要性が話し合われ、合意した。

あらかじめ班に分けておく。班を以下の６者に割り振る。ワークシートから、各班が、どのような主張をするか考える。
A　若い夫婦（共働き・ほとんど家にはいない）
B　若者（フリーター・低収入・ほとんど家にいない）
C　老夫婦（年金暮らし・ほぼ家にいる）
D　一人暮らしサラリーマン（転勤族・最近越してきた）
E　一階部分テナント（コンビニ）経営者
F　４人家族（夫サラリーマン・妻専業主婦・子供２人）

展　開（25分）

主張（各班２分×６班）
・各班（代表が、それぞれの立場から費用負担について要望を伝える。ワークシートの①

意見・質問・反論（１０分）
・各班の代表へ意見、質問を行い、回答、反論を返す。ワークシートの②
（結論が出た場合）→納得がいかなかった人はいなかったか。どうしていれば納得できたか、発表する。全員が納得した場合、その要因は何であったか考える。
（結論が出ない場合）→全員が納得するためには、何が必要であったか考える。ワークシートの③

ふり返り（10分）

ふり返り
・ワークシートの③を記入させ、発表させる。発表に対する感想や意見などを引き出す。

・ワークシートの④を記入させ、発表させる。生徒からねらいに近いものが出ればそれを拾い上げ、出なければ教師からの助言として、全員が納得するためのポイントが「共感と連帯感」や「公平・公正」であることに気付かせたい。

ワークシート　「マンション耐震化工事　費用負担の割合、どうする？」

あらすじ

　あるマンションでは、住人たちが話合いを重ねています。築 30 年のこのマンションの耐震強度に問題があることがわかったからです。話し合いの結果、全住民から耐震化工事の必要性があるということで合意し、耐震工事費用 3000 万円を住民で分担することに決まりました。しかし、費用負担の割合が決まりません。住人同士の話合いが、今日も開かれます…

イメージです

マンションの住人

A	若い夫婦（ともに３０歳）・共働き・ほとんど家にはいない	収入 609 万円
B	若者（１９歳）・フリーター（低収入）・ほとんど家にいない	収入 140 万円
C	老夫婦（ともに６７歳）・年金暮らし・ほぼ家にいる	収入 312 万円
D	一人暮らしのサラリーマン（３５歳）・転勤族	収入 420 万円
E	一階部分テナント（コンビニ）経営者（４５歳）	収入 700 万円
F	４人家族・夫サラリーマン（３２歳）・妻専業主婦（２９歳）・子供２人	収入 360 万円

あなたの班は…
【　　】班

①耐震化費用の分担を決める話合いで、どう主張しよう？

自分の班の役割人物の状況や要望

他班のメモ

このワークシートのねらい（教員用）　基本的には中学３年の社会科公民的分野「社会集団の中で生きる一人」として、対立と合意、効率と公正の考え方を学ぶことをねらいとしている。
人権教育上の配慮　Ａ～Ｆの役割分担は、生徒の希望ではなく、教員が割り当てたり、「役割カード」を無作為に配布したりして決める。
（平成２０年版プログラム P125～132 参照）
他班の発表はメモを取るよう指導する。

②意見・質問・反論を考えよう

（　　）班の意見…　　質問／反論

このワークシートのねらい（教員用）　費用負担割合の対立の解決策を目指して、意見を出し合う。

人権教育上の配慮　互いの関係が悪くなったり、トラブルが起きたりしないよう教員は適宜助言する。

③なぜ話合いはうまくいったのだろう？／なぜ話合いはうまくいかなかったのだろう？

④全員が納得できる話合いをするために、必要なことは何だろうか。

このワークシートのねらい（教員用）　自分の考えや欲求を主張するだけでなく、相手の話をよく聞いて互いに受け入れられる解決策を考えさせる。

人権教育上の配慮　生徒の意見を発表させながら、全員が納得するためのポイントが「共感と連帯感」や「公平・公正」であることに気付かせたい。

① 「マンション耐震化工事　費用負担の割合、どうする？」（第３学年）　【社会科】

第1章 第2章 事例編 小学校低学年のプログラム 小学校高学年のプログラム 小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 中学校のプログラム 中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 高等学校等のプログラム 高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画 プログラムの活用対応表

資料　数値の出典　　（収入の単位は円）

1.	若い夫婦（ともに３０歳）・共働き・ほとんど家にはいない	収入 609 万
2.	若者・フリーター（定収入）・ほとんど家にいない	収入 140 万
3.	老夫婦（ともに６７歳）・年金暮らし・ほぼ家にいる	収入 312 万
4.	一人暮らしのサラリーマン（３５歳）・転勤族	収入 420 万
5.	一階部分テナント（コンビニ）経営者（４５歳）	収入 700 万
6.	４人家族・夫サラリーマン（３２歳）・妻専業主婦（２９歳）・子ども２人	収入 360 万

1.3.4.6.　総務省統計局の平成 23 年の国勢調査データを参照
2.　橘木俊詔著『脱フリーター社会』（東洋経済新報社，2004 年）P126, 155
※　耐震補強工事費用の金額　　3000 万円の根拠は NPO 法人マンション再生ナビより

中学校第３学年
（数 学 科）

缶のまわりの長さを求めよう

ねらい

数学の学習では、変化し続ける社会で生き抜くために、未知の問題に対して考えることや試行錯誤することを通して、課題解決に主体的に取り組む力を身に付けてほしいと考える。この学習では、自分の考えを自分なりにまとめ、班で自分の考えを他の生徒に説明することや、自分の考えと友達の考えを比較することで、論理的に伝え、自分とは違う他者の考えや良さを聴き取るという自己表現力やコミュニケーション能力を培う。

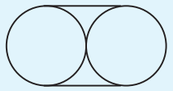
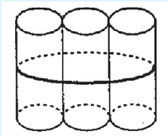
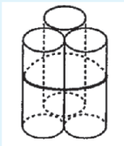
◆◆関連する視点◆◆
コミュニケーション能力
多様性の尊重・共生
◆◆準備するもの◆◆
筆記用具・マーキングペン
ワークシート①②（学習課題１・２）
説明用ワークシート(ふり返りを含む)

アクティビティーの実際

導　入（15 分）

直径が a cm の缶ジュースがあります。(円周率はπとする)
(1)1本の缶のまわりの長さを求めてみよう。
(2)2本まとめた缶のまわりの長さを求めてみよう。
(3)3本まとめてリボンでまとめたいと思います。
まとめ方は、2通りあります。2通りのまとめ方のうち、どちらのリボンの結び方が短いですか。
※　相手(全体)を意識して代表者に自分の考えを発表させることで、伝える力を高める。

(1)

(2)

①

②


展　開（20 分）

直径が a cm の缶ジュースがあります。(円周率はπとする)
4本(5本)集めてリボンでまとめたいと思います。次のまとめ方を考えたときに、どのリボンの結び方が一番短いですか。
(1)4本の場合
①

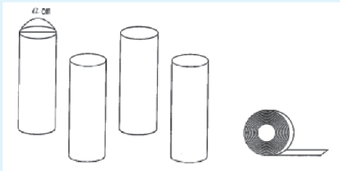
②

③

(2)5本の場合
①

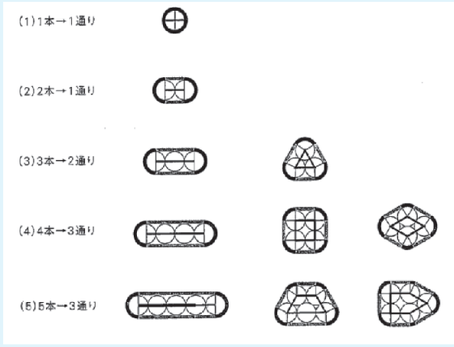
②

③


※　班内で教え合う活動を行い、お互いの考えを聞き、伝える力(コミュニケーション能力)を高める。

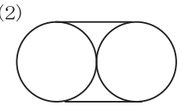
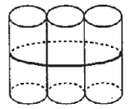
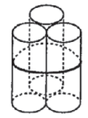
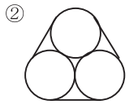
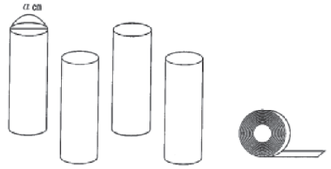
まとめ（15 分）

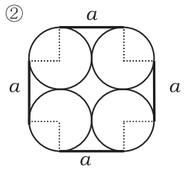
缶のまとめ方と、まわりの長さについて、確認する。
(ｱ)1列に並べる場合　$\pi a+2\pi(n-1)$
(ｲ)安定させ、まとめる場合　$\pi a+\pi n$　(ただし $n\geqq 3$)



《ふり返り》
○他の班員の発表について、良かったところをワークシートに各自でまとめる。(他者評価)
↓
○班で、他者評価を発表し合う。お互いの良い点を伝え合う。(他者理解)
↓
○各自で、今日の活動についてのふり返りを行う。

《本時の展開》

	学　習　活　動	・指導上の留意点　☆評価 ◎人権教育上の配慮
導入 班 15分	**【学習課題1：本時の学習内容について知る】** 直径が $a$cm の缶ジュースがあります。(円周率はπとする) (1)1本の缶のまわりの長さを求めてみよう。 (2)2本まとめた缶のまわりの長さを求めてみよう。 (3)3本まとめてリボンでまとめたいと思います。 まとめ方は、2通りあります。2通りのまとめ方のうち、どちらのリボンの結び方が短いですか。 (1) (2)  (3) ①  ②  6人班をつくる。学習課題1に取り組む。 《考え方》 (1) $a\times\pi=\pi a$　　円周＝円の直径×円周率を確認する。 (2) $a\times\pi+a\times2=\pi a+2a$　円周＋直径を2本加えたものであることを確認する。 (3) ① ②  $a\times\pi+(a\times2)\times2=\pi a+4a$　　$a\times\pi+a\times3=\pi a+3a$ したがって、②のほうが短い。 ○班内(個人)で教え合い、お互いの考えを深め合うことでコミュニケーション能力を高める。 ○相手(全体)を意識して代表者が発表することで自己表現力を高める。 ○友達の考えと自分の考えを比較しながら聞くことで、他者理解につなげたり、自分の考えを深めたりする。	・ワークシート①を配布する。 ☆意欲的に取り組もうとしているか。 ☆円周を求めることができるか。 ☆円周について既習の知識を用いたり、仲間と協力しながら長さを求めようとしたりしているか。 ・1問ずつ、黒板で説明させる。 ・(3)で、缶が3本の場合は、$3a$と$4a$の違いに注目させる。直径 a の分だけが違うことを確認する。
展開 班 20分	**【学習課題2：発展させて考える】** 直径が　a cm の缶ジュースがあります。(円周率はπとする) 4本(5本)集めてリボンでまとめたいと思います。次のまとめ方を考えたときに、どのリボンの結び方が一番短いですか。 4本の場合、5本の場合、それぞれ考えよう。  《考え方》 (1)4本の場合 ① ② ③ $a\times\pi+(a\times3)\times2=\pi a+6a$　　$a\times\pi+a\times4=\pi a+4a$　　$a\times\pi+a\times4=\pi a+4a$ (2)5本の場合 ① ② ③ $a\times\pi+(a\times4)\times2=\pi a+8a$　　$a\times\pi+a\times5=\pi a+5a$　　$a\times\pi+a\times5=\pi a+5a$ ○始めに個人で考え、ワークシート②に自分の考えを記入する。 次に、班で6つの組み方から各自1つ選び、説明用ワークシートに自分の説明を書き込む。	☆課題1と比較して、自分なりに長さを求めようとしているか。 ・課題1から、いちばん短いのは①ではない、と判断がつくと思われるが、②③で迷うことが考えられる。 ☆6つの事象について、長さを求めることができたか。

	《生徒の反応例(説明用ワークシート)》 4本の場合 ②  円周の一部を4つすべて合わせると、円周と同じ長さになるので、$a\times\pi=\pi a$。 また、 a が4つあるので、$4a$。 あわせて　$\pi a+4a$。 ○説明用ワークシートへの記入が終わったら、自分の考えを他の班員に説明する活動を行う。他の班員の考えを聞き、自分の考えを深める。	◎自分の考えをわかりやすく伝えるための工夫をさせる。(色マーキングペンで記入する、区切り線、補助線を入れるなど。) ◎友達の説明を聞くことで、自分の考えを深める。また友達の説明の良い点に注意させ、他者理解につなげさせる。 ◎自分なりの説明ができれば良い。正確さよりも、その生徒なりの表現を評価していく。 ・説明が苦手な生徒には 、まわりの生徒がサポートし 、説明できるようにする。
まとめ 班 15分	【まとめ：本時のポイントを整理する　他者評価を行う】 1本から5本までのまとまりを示し、求め方やその規則性について確認を行う。 (ｱ)1列に並べる場合　$\pi a+2\pi(n-1)$　　(ｲ)安定させ、まとめる場合　$\pi a+\pi n$　(ただし $n\geqq 3$) (1)1本→1通り πa (2)2本→1通り $\pi a+2a$ (3)3本→2通り $\pi a+4a$ $\pi a+3a$ (4)4本→3通り $\pi a+6a$ $\pi a+4a$ (5)5本→3通り $\pi a+8a$ $\pi a+5a$ ○次に、各自が記入した説明用ワークシートを別の班員に渡し、発表についての評価を記入してもらう。記入し終わったら、お互いの発表についての評価を発表し合う。 ○説明用ワークシートに書かれた、友達からの評価を確認する。 ○説明用ワークシートに従い、各自ふり返りを行う。	☆缶のまわりの長さを求める過程を通して、規則性や法則に気付くことができたか。 ・1年次では、この部分を「文字と式」の応用として扱うことができる。 2年次では、「1次関数」の応用として扱うことができる。 ・時間をかけ過ぎないように、次の活動にすぐに移れるようにする。 ◎友達の説明の良い点を、プラスに評価できるように支援する。相互評価のために、教師は評価の視点を与えると良い。(説明の仕方、ワークシートのまとめ方、声の大きさ、意欲など)

缶のまわりの長さを求めよう ワークシート①

年　組　番 氏名

【学習課題1】

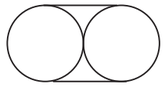
直径が a cm の缶ジュースがあります。(円周率はπとする)

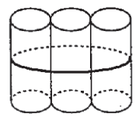
(1)1本の缶のまわりの長さを求めてみよう。

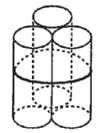
(2)2本まとめた缶のまわりの長さを求めてみよう。

(3)3本まとめてリボンでまとめたいと思います。
まとめ方は、2通りあります。2通りのまとめ方のうち、どちらのリボンの結び方が短いですか。

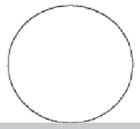
(1)

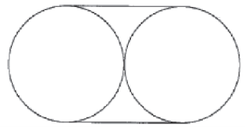
(2)


(3) ①


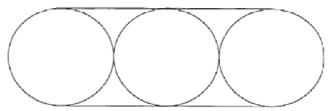
②


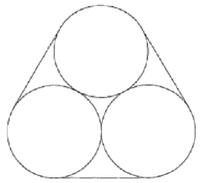
○自分の考えを書こう。図にかき込んだり、式で説明したりしよう。

(1)


(2)


このワークシートについて（教員用）　３本の缶をまとめるときには２通りの方法があることに気付くことが大切である。「新聞紙を縛るときにはぎゅうぎゅうと引っ張るよね」など、ヒントを出しても良い。

(3) ①


②


このワークシートについて（教員用）　(3)で②を選んだが、理由が説明できないという場合でも、自分がわかるところまで説明しようとする態度を評価する。また、「正確な弧の角度を測って周を合計したい」などの直接正解に結びつかない発言であっても、途中までの考え方を評価する。これらの態度や発言を評価することにより、人権感覚が育成されることに留意する。後者の発言については、「図形から、リボンを結ぶ時は、周の長さのうち直線でない部分は、円周１周分だね」などと説明し、ワークシート②につなげる。

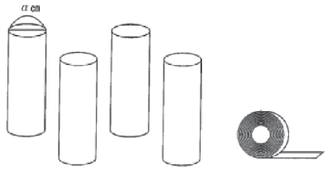
○友達の考えで、自分の考えと異なるもの、参考になるものなどを書きとめよう。

缶のまわりの長さを求めよう ワークシート②

年　　組　　番 氏名

【学習課題2】

直径が a cm の缶ジュースがあります。(円周率は π とする)
4本(5本)集めてリボンでまとめたいと思います。次のまとめ方を考えたときに、 どのリボンの結び方が一番短いですか。

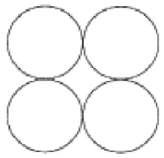


○缶のまわりにリボンの線をかいて、自分の考えを書こう。式でも説明しよう。

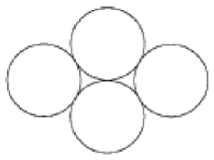
（1）4本の場合

①

②



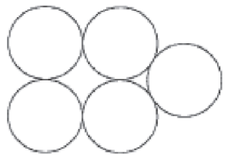
③



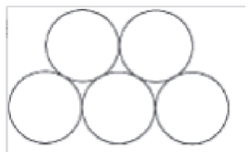
（2）5本の場合

①

②



③



第1章
第2章 事例編
小学校低学年のプログラム
小学校高学年のプログラム
小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
中学校のプログラム
中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
高等学校等のプログラム
高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画
プログラムの活用対応表

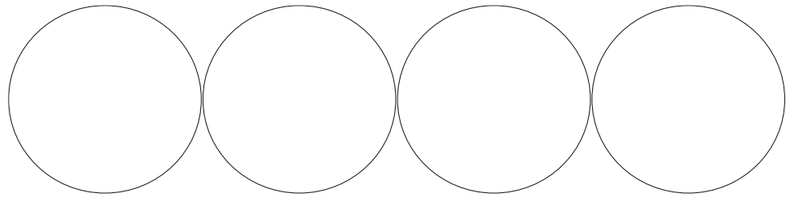
缶のまわりの長さを求めよう（説明用ワークシート・ふり返り）

年　　組　　番 氏名

○自分の考えを友達にわかりやすく伝えられるように、図にかき込み、また式を使って説明しよう。

【自分の考え】

このワークシートについて（教員用）　これは４本の場合の一例だが、この残りの５つの場合についても、図をあてはめて説明用ワークシートを作成する。



このワークシートのねらい（教員用）　このワークシートを使って説明しているかを評価の視点として、自分の考えを、他の生徒にわかりやすく伝えようとしているか、また、他の生徒は真剣に聞こうとしているかを評価する。

人権教育上の配慮　教員は「良かったところ」の具体的な視点として、ワークシートのまとめ方や声の大きさ、取組の意欲なども示す。
　自分の考えをわかりやすく発表したり、自分と異なる他の人の考えを傾聴したりすることで、人権感覚が育成され、人権課題を解決しようとする態度や行動につなげられることに留意する。

○自分の発表についての評価をしてもらおう。

良かったところは…
評価してくれた人(　　さん)

○ふり返ってみよう。

□自分の考えをわかりやすく説明できましたか。あなたが工夫した点を書きましょう。		
□班のみんなは、あなたの説明を真剣に聞いてくれましたか。	はい	いいえ
→　その時、どう思いましたか。		
□あなたは、班のみんなの説明を真剣に聞くことができましたか。	はい	いいえ
→　その理由を書きましょう。		
□この授業の取組で、うれしかったことを書きましょう。		

中学校第１～３学年
（特別活動）

「新しい大陸に向けた航海」

（コンパシート［羅針盤］〔ヨーロッパ評議会企画・福田弘訳〕を参考にして）

ねらい

アクティビティーを通して、人が「欲しいと思うもの」と「必要とするもの（人間らしく生きていくために必要不可欠なもの）」との関係を考えることにより、人権の概念とその重要性（人権とは何か、いかに大切なものか）について、体験的に理解を深め、人権を尊重しようとする意欲・態度を養う。また、人権が尊重される社会を築いていこうとする実践力を育成する。

◆◆関連する視点◆◆
人間の尊厳・価値の尊重
コミュニケーション能力
◆◆準備するもの◆◆
場面カード（掲示用）
欲しいもの・必要なものカード
セロハンテープ　模造紙
写真

アクティビティーの概要

活動１　アイスブレーキング・後出しジャンケン大会を行う。
・後出しジャンケンで、生徒は先生に負けるように出す。
（ジャンケンは勝つように出すという先入観があるので難しい。しかし、先入観を払拭すれば、新しい考えに立つことができる。）

活動２　アクティビティー「新しい大陸に向けた航海」を行う。
・新しい大陸に向けて出発した子どもたちが、無事そこにたどり着き生活を始めるために、必要不可欠なものを残し、そうでないものを、船外に投げ捨てなければならないという優先順位付けのアクティビティーを行う。

活動３　ふり返り
・必要不可欠なものを残し、そうでないものを、船外に投げ捨てた時の気持ちをふり返り、人権の概念（人として尊厳をもって生きるために必要不可欠なもの）や人権尊重の重要性について話し合う。

アクティビティーの実際

導　入（5分）

アイスブレーキング
※「後出しジャンケン大会」を実施する。
＜やり方＞
①最初は普通に、教師対生徒で一斉にジャンケンをする。（生徒は、当然教師に勝とうとする。）
②後出しジャンケンで、生徒は先生に負けるように出す。全員が負けられるまで、全員で繰り返す。（「ジャンケンは勝つように出すもの」という先入観があるので難しい。しかし、慣れれば何ということもない。先入観も振り払ってしまえば、新しい考えに立つことができる。）

③「新しい大陸に向けた航海」コンパシート［羅針盤］ヨーロッパ評議会・福田弘訳を参考にして（第1～3学年）【特別活動】

展　開（25分）

アクティビティー
［新しい大陸に向けた航海］（優先順位付けのアクティビティー）

① 皆さんは今から、新しい大陸のパイオニアになるべくして、船で出航します。途中で起こる様々なハプニングに班で話し合って対処してください。
② はじめは、航海は大変快適です。太陽は輝き、海は静かです。しかし、大きな嵐が突然やってきました。船が大きく揺れ動いています。今にも船は沈没しそうです。あなたたちは、船が沈まないように、カードのうち３枚を船外に投げ捨てなければなりません。班で話し合って、捨てる３枚を決めましょう。
③ やっと嵐は終わりました。みんな本当にほっとしました。しかし、カテゴリー５（最大級）のハリケーンが船にまっすぐ向かってきていることを告げる天気予報が届きました。ハリケーンの被害から生き残るためには、さらに３枚のカードを船外に投げ捨てなければなりません。ただし、新しい国で生存するために必要であると思われるものは捨ててはいけないことを忘れないでください。班で話し合って、捨てる３枚を決めましょう。
④ 危機一髪でした。しかし、私たちは、もう新しい大陸に着いたようなものです。みんなとても興奮しています。ところが、水平線にその陸地が見えたとたんに、巨大な鯨が私たちの船に衝突して、側面に穴を開けてしまいます。あなたは船をもっと軽くしなければなりません。さらに、３枚のカードを班で話し合って、投げ捨ててください。
⑤ とうとう新しい大陸に安全に到着し、新しい国を建設する準備ができました。新しい大陸に持ってきたものを全員が覚えておくことができるように、残っているカードをグループごとに１枚の紙に貼っておきましょう。
⑥ 班ごとに何を、なぜ残したのか説明しましょう。

ふり返り（20分）

ふり返り
① アクティビティーの中で嵐や鯨の衝突で荷物を投げ捨てなければならなかった時、持っていくもの（残すもの）と投げ捨てるものをどうやって決めましたか。
② 皆さんが、捨てたとき、捨てる決断がしにくかったものはありますか？それは、どのようなものですか。
③ 「必要なもの」と「欲しいもの」と「人権」はどういう関係にあるのでしょう。
④ 何を持っていき、何を捨てるか決めたとき、グループの中で意見が合わないことがありましたか？　話合いのなかで、不一致をどう解決しましたか。
⑤ 今日のアクティビティーに出てこなかったもので、私には、これがないと生きていけないというもの（wants ではなく needs であるもの）があった人はいますか？
⑥ 話合いのなかで、自分の考えをしっかり言うことができましたか。また、相手の意見をしっかり聞くことができましたか。

第1章 第2章事例編 小学校低学年のプログラム 小学校高学年のプログラム 小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 中学校のプログラム 中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 高等学校等のプログラム 高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画 プログラムの活用対応表

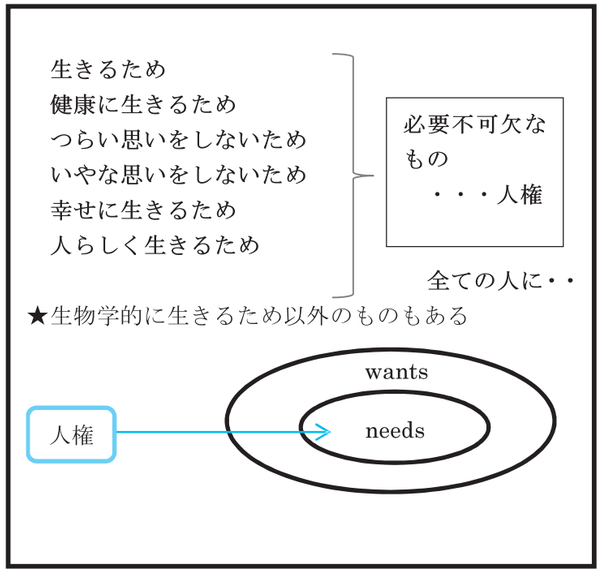
アクティビティーを指導するポイント

◇　人間らしく尊厳を持って生きるために必要不可欠なものがあることや、欲しいものと必要なものは、同じではないこと、必要不可欠なものは、人により必ずしも同じではないことなどを体験的に理解できるようにする。

◇　投げ捨てる３枚を決める話合いを通して、能動的傾聴や適切な自己表現、合意の形成（折り合いをつけること）、互いの相違の受容ができるよう配慮する。

◇　人権の大切さを感じ取り、人権を尊重しようとする意欲が持てるようにする。

◇　ふり返りの際の板書（例）



授業展開例

	学　習　活　動	・教師の働きかけ　◎人権教育上の配慮
活動の開始	**アイスブレーキング：「後出しジャンケン大会」**を実施する。 ＜やり方＞ ①　最初は普通に、教師対生徒で一斉にジャンケンをする。（生徒は、当然教師に勝とうとする。） ②　後出しジャンケンで、生徒は先生に負けるように出す。全員が負けられるまで、全員で数回繰り返す。（「ジャンケンは勝つように出すもの」という先入観があるので難しい。しかし、慣れれば何ということもない。先入観も振り払ってしまえば、新しい考えに立つことができる。）	
	・アンケート（「人権とは何か分かりますか」）の結果発表と活動テーマの確認	・アンケート調査の結果発表から、本時の課題への関心を高める。 ・本時の活動テーマを確認する。
	「アクティビティーに参加して、人権とは何か考えよう」	

③「新しい大陸に向けた航海」コンパシート［羅針盤］ヨーロッパ評議会・福田弘訳を参考にして（第1～3学年）【特別活動】

第1章 第2章 事例編 小学校低学年のプログラム 小学校高学年のプログラム 小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 中学校のプログラム 中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 高等学校等のプログラム 高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画 プログラムの活用対応表

	アクティビティー［新しい大陸に向けた航海］	
活動の展開	・アクティビティーの概要の理解 ・アクティビティーを進める際の約束の確認	・アクティビティーの概要を理解し、活動の見通しを持てるようにする。 ◎ディスカッションのルールを理解すると共に、能動的傾聴や適切な自己表現、合意の形成（折り合いをつけること）、互いの相違の受容ができるよう配慮する。
	約束　・関心を持って耳と心を傾けて聴く。　・批判やコメントをせずに聴く。 ・一人称単数の主語で話し、他に変わって一般化しない。　・順番に話す。 ・意見が食い違ったら話し合い、折り合いをつける。たった１つの正しい答えがあるとは限らない。　・からかいやあざけりをしない。	
	・アクティビティーの準備 ・アクティビティー	・「欲しいもの・必要なものカード」を配布する。
	①　皆さんは今から新しい大陸に向けて船で出航します。現在、その大陸に住んでいる人はいません。ですから、そこに到着すると、皆さんは、新しい国を樹立するパイオニアとなります。	
	②　いよいよ出航です。はじめは、航海は大変快適です。太陽は輝き、海は静かです。しかし、大きな嵐が突然やってきました。船が大きく揺れ動いています。今にも船は沈没しそうです。あなたたちは、船が沈まないように、カードのうち３枚を船外に投げ捨てなければなりません。班で話し合って、捨てる３枚を決めましょう。	
	・班でのディスカッションと優先順位付け	・新しい大陸では、救助を待つのではなく、新しい国を建設して、生活することを確認する。 ◎人間らしく生きるために必要不可欠なものを考え判断する体験ができるようにする。
	③　やっと嵐は終わりました。みんな本当にほっとしました。しかし、カテゴリー５（最大級）のハリケーンが船にまっすぐ向かってきていることを告げる天気予報が届きました。ハリケーンの被害から生き残るためには、さらに３枚のカードを船外に投げ捨てなければなりません。話し合って、決めましょう。ただし、新しい国で生存するために必要であると思われるものは捨ててはいけないことを忘れないでください。	
	・班でのディスカッションと優先順位付け	◎人間らしく尊厳を持って生きるために必要不可欠なものを考え、判断する体験ができるようにする。 ◎欲しいものと必要なものの違いを考え、判断する体験ができるようにする。
	④　危機一髪でした。しかし、私たちは、もう新しい大陸に着いたようなものです。みんなとても興奮しています。ところが、水平線にその陸地が見えたとたんに、巨大な鯨が私たちの船に衝突して、側面に穴を開けてしまいます。あなたは船をもっと軽くしなければなりません。さらに、３枚のカードを投げ捨ててください。	

活動の展開	・班でのディスカッションと優先順位付け	◎人間らしく尊厳を持って生きるために必要不可欠なものを考え、判断する体験ができるようにする。 ◎欲しいものと必要なものの違いを考え、判断する体験ができるようにする。
	⑤　とうとう新しい大陸に安全に到着し、新しい国を建設する準備ができました。新しい大陸に持ってきたものを全員が覚えておくことができるように、残っているカードをグループごとに１枚の紙に貼っておきましょう。	
	⑥　班ごとに、何を、なぜ新しい土地に持ってきたのか発表する（説明）	
	●ふり返り	
	○最後に残ったものは、どのようなものでしたか。 ○捨てる決断をするのが難しかったものはどれですか？ ○それを捨てた時にどのような気持ちがしましたか？ ○「必要なもの」と「欲しいもの」と「人権」はどういう関係にあるのでしょう。 ○何を持っていき、何を捨てるか決めたとき、メンバーの意見が合わないことがありましたか？　それはどんな時ですか。 ○今日のアクティビティーに出てこなかったもので、私には、これがないと生きていけないというもの（wantsではなくneedsであるもの）がありましたか？ ・あった。→　それは何ですか？　（　　） ・なかった。 ○必要なもの＝人権は誰にとっても同じでしたか？ ○メンバーの意見が合わなかったとき、どのように解決しましたか。 ○話合いのなかで、自分の考えをしっかり言うことができましたか。また、相手の意見をしっかり聞くことができましたか。	
	・活動のふり返りと人権の概念の理解	◎活動をふり返ることで、生存するだけでなく、人間らしく尊厳を持って生きるために必要不可欠なもの、wants ではなく needs の部分が人権(human rights)であり、人により必ずしも同じではないことに気付くようにする。 ◎人権の大切さを感じ取り、人権を尊重しようとする意欲が持てるようにする。
活動のまとめ	・本時の学習で学んだことのまとめと今後の努力事項の決定	◎本時の学習で学んだことをふり返りシートに記入し、整理することで、人間らしく尊厳を持って生きるため誰もが生まれながらに持っている必要不可欠の権利が人権であることを確認できるようにする。また、人権が尊重される社会を築いていこうとする決意が持てるようにする。

③「新しい大陸に向けた航海」コンパシート［羅針盤］ヨーロッパ評議会・福田弘訳を参考にして（第1～3学年）【特別活動】

第1章
第2章 事例編
小学校低学年のプログラム
小学校高学年のプログラム
小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
中学校のプログラム
中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
高等学校等のプログラム
高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画
プログラムの活用対応表

ふり返りシート

①最後に残ったものは、どのようなものでしたか。

②捨てる決断をするのが難しかったものはどれですか？

③それを捨てた時にどのような気持ちがしましたか？

④「必要なもの」と「欲しいもの」と「人権」はどういう関係にあるのでしょう。

⑤何を持っていき、何を捨てるか決めたとき、メンバーの意見が合わないことがありましたか？　それはどんな時ですか。

⑥今日のアクティビティーに出てこなかったもので、私には、これがないと生きていけないというもの（wants ではなく needs であるもの）がありましたか？
・あった。→　それは何ですか？　（　　）
・なかった。

⑦必要なもの＝人権は誰にとっても同じでしたか？

⑧メンバーの意見が合わなかったとき、どのように解決しましたか。

⑨話合いのなかで 、自分の考えをしっかり言うことができましたか 。また 、相手の意見をしっかり聞くことができましたか。

欲しいもの・必要なものカード

意見を共有する機会

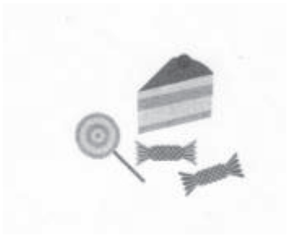
腕時計

薬と予防接種

文化と言語を実践する機会

民主的な選挙と規則

医師


お菓子

MP3プレイヤーあるいはCDプレイヤー

宝石

暖かい服

快適な家

虐待からの保護

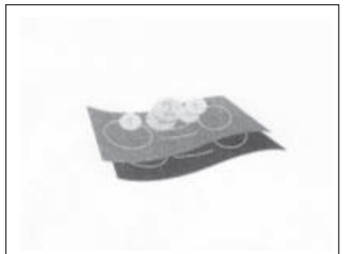
ファッショナブルな服

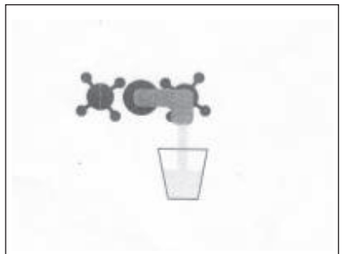
栄養のある食物

教育

③「新しい大陸に向けた航海」コンパシート［羅針盤］ヨーロッパ評議会・福田弘訳を参考にして（第1～3学年）【特別活動】

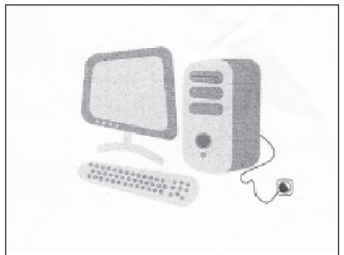
第1章
第2章 事例編
小学校低学年のプログラム
小学校高学年のプログラム
小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
中学校のプログラム
中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
高等学校等のプログラム
高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画
プログラムの活用対応表

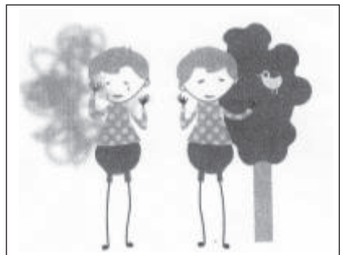

好きなように使えるお金

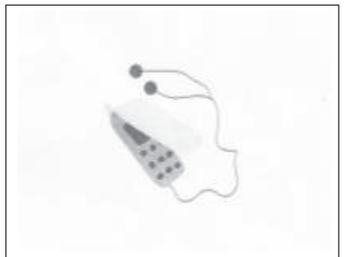

清潔な水

自分用のベッドルーム

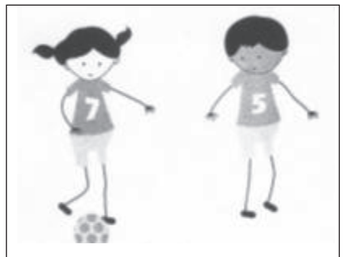
公正な待遇と無差別

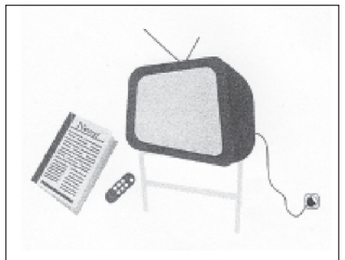

コンピュータとインターネットへのアクセス

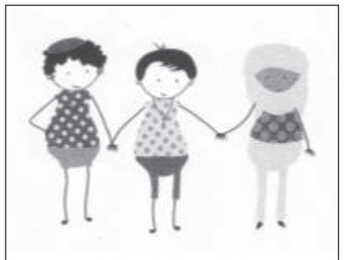

清潔な環境


携帯電話

コカ・コーラとハンバーガー


体操と遊びの機会


テレビと新聞


宗教を実践する機会

両親

浜辺での休暇

自転車

おもちゃとゲーム

コラム　中学校

人権感覚育成のためのヒント

人権感覚育成プログラムでは、生徒同士が関わる場面を意図的につくったアクティビティや、ロールプレイなどの擬似体験から相手の気持ちを考えさせる手法を多く用いる。これらの学習では、全ての生徒が実際に活動に参加し、体験することが重要である。特にグループ活動では、一人でも参加しないと成り立たないような内容を考えることが大切である。教科指導における人権感覚の育成は、体育、技術・家庭、音楽、美術などの体験的内容を多く含む教科で容易に工夫できる。例えば、球技などの集団競技はチームワーク（協力・参加）が重要な要素であり、協力関係を意識させることで人権感覚を育成するのに適した授業になる。ただし、１時間の授業の中でふり返りを行うことが難しい場合は、道徳や特別活動と組み合わせ、２時間続きのプログラムとして組み立てる方法も考えられる。

１年生　体育

教材　「バレーボール」

視点　共感と連帯感

○試合をする際、勝敗にこだわるために、トラブルが起きることがある。それをチーム内でいかに解決していくかを考えさせる。また、ルールづくりを工夫させるなど、合意形成のプロセスを体験させることで、人権感覚を育む教材とする。

２年生　美術

教材　「鑑賞」

視点　多様性の尊重・個人の尊厳

○美術作品は、見る人により評価が分かれる場合も多々ある。作品の良さや鑑賞の視点などを見つけ合うよう促す。

３年生　数学

教材　「証明」

視点　公平・公正　コミュニケーション能力

○数学的な思考は論理的な考え方のもととなる。偏見や非科学的な考え方に対抗していくための助けとなり、コミュニケーション能力が育成できる。

３年生　音楽

教材　「合唱」

視点　共感と連帯感

○合唱の練習をする中で生まれる、他の生徒に対する様々な思いをもとに人間関係を考えることで、人権感覚を育むことができる。「知覚の言葉」「感受の言葉」など音楽の授業に言語を取り入れ、気持ちの変化グラフ等を作成させると、人間関係をふり返るきっかけとなる。参考「**そのままの君で**」　作詞、作曲：松井 孝夫

３年生　技術・家庭

教材　「木工」

視点　多様性の尊重・共生

○男女の性別による固定的な職業観を見直すきっかけとなるように、活躍する女性の大工さんの話などを紹介するとよい。

中学校人権教育全体計画（例）

・日本国憲法
・学校教育法
・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
・埼玉県人権施策推進指針
・埼玉県教育行政重点施策
・埼玉県人権教育推進プラン

学校教育目標

○心ゆたかな生徒
　命の大切さを知り、思いやりと感謝の気持ちを持つ生徒
○意欲的に学ぶ生徒
　自ら学び自ら考え、より高い目標を目指して学ぶ生徒
○たくましく生きる生徒
　困難に立ち向かう気力を持ち、心身を鍛え健康に心がける生徒

○○町人権尊重の施策
～第４次総合振興計画～
① 人権尊重の精神の高揚
② 人権教育の推進
③ 各種相談事業の充実
④ DV の防止と救済対策の充実
⑤ 子どもの人権擁護

望ましい生徒像
1　豊かな心で人に接し、互いに尊敬しあえる生徒
2　強い意志をもち、正しいことを最後までやりとおす生徒
3　差別を許さず、差別に立ち向かって生活できる生徒

人権教育の目標
1　人権問題を正しく理解し、自分たちの課題として解決する能力を育てる
2　人権を尊重し、差別と偏見を見ぬき、なくそうとする態度を育てる

○○町教育行政重点施策
人権尊重し豊かな心を
はぐくむ教育の推進
① 人権を尊重する教育の推進
② 地域社会における人権教育の推進
③ 豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実
④ ボランティア・福祉教育の充実
⑤ 生徒指導の取組の充実

人権教育の努力事項
① 全教育活動を通して人権意識の向上に努める。
② いじめ問題の早期発見早期解決を図る。
③ 同和教育を人権教育の大切な柱とし、同和問題を解決していこうとする人権意識を育てる。

指導の重点（第１学年）
中学校の集団活動に早くなじみ、集団生活の中で、いじめなどの差別をしない、許さない態度を養う。

指導の重点（第２学年）
人権問題を正しく理解し、集団生活の中で、人権を尊重する態度を養う。

指導の重点（第３学年）
人権侵害や差別問題について考え、自らの行動を通して明るい社会をつくろうとする態度を養う。

各教科	道　徳	特別活動	総合的な学習の時間

今年度の重点的な取組

	授業実践	特別支援教育	生徒指導	体験教育
重点目標	○人権教育と関連付けた、授業実践をすすめる。	○不登校生徒への新たな対応として、「寺子屋」教室の開設及び運営について研究する。	○規律ある態度の育成を図り、「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を行う。	○体験活動を通して、温かい人間関係のあり方を理解する。
活動の内容	① 人権感覚育成プログラムを活用した授業の工夫改善 ② 人権感覚育成プログラムを活用した授業実践	① 教育相談部会の開催 ② 「寺子屋」教室の運営 ③ 不登校対策委員会への参加 ④ 個人カードの作成	① 学校の規則を守り、授業規律を指導する。 ② 諸活動に積極的に参加させる	① 職場体験（1年） ② 上級学校訪問（2年） ③ 福祉体験（3年） ④ 赤ちゃんふれあい体験（1年）
担当	人権教育主任 各学年人権教育担当	特別支援教育コーディネーター 教育相談担当	生徒指導主任 生徒指導部会	特別活動担当 総合的な学習の時間担当

関連を図る取組

教育相談	校内研修	家庭・地域との連携
① 学校教育相談体制を充実させる ② 学校カウンセラー、相談員と教職員との連携を密にし、生徒理解を深め、情報を共有する。 ③ 子ども家庭課、適応指導教室、児童相談所等との連携を図る。	① 人権教育に関わる教職員研修を計画的・継続的に実施する。 ② 教職員が、自らの人権意識を見つめ直し、人権意識の高揚を図る。 ③ 指導力を高める研修の内容の充実に努める。	① PTA や保護者会等を通して、学校の人権教育への理解を深める。 ② 家庭における基本的な生活習慣を確立するための情報提供に努める。 ③ 学校だより等で学校からの情報提供を行う。

生徒の具体的目標
1　友達の立場を考えて行動する生徒
2　友達の嫌がることを言わない生徒
3　学力の優劣で友だちを差別しない生徒
4　身体のことや家のことで友だちを差別しない生徒
5　どんな小さな発言も大事にし、みんなで考える生徒
6　差別を許さず、差別に対し進んで解決していこうとする姿勢が持てる生徒

人権及び人権問題を理解する
○基本的人権の具体的内容を理解し、人権侵害の具体的事例について学ぶ。
○人権が確立する過程や人権についての考え方の歩みを理解するとともに、国内外の人権規約等について学ぶ。
○世界にある様々な人権に関する問題について学習する。
○女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、外国人などに関する人権課題について
・現状やその歴史について学ぶ
・課題を解決するために取り組まれてきた事柄等を学び、課題を克服していくための方法や社会への働きかけについて考える。
○様々な因習や偏見等について学習し、人権問題との関わりを考える。
○「老い」や「生と死」、情報化にともなう人権課題について考える。

中学校第3学年　年間指導計画（例）

◎人権感覚育成プログラム増補版【新規】
○平成２０年版人権感覚育成プログラム
＊人権教育資料「指導実践の手引」（平成２２年３月）

月	教科等	主題・題材名・活動	目　　標	人権教育上の視点
4	社会	第一次世界大戦と社会「広がる社会運動と普通選挙の実現」＊	大正デモクラシーの風潮の中、社会運動が高まりを見せる中で、部落差別の解消を目指す動きが始まったことを理解させる。	同和問題について正しく理解し、同和問題を解決しようとする態度を養う。【同和問題】
	家庭	家庭について考える	家庭や家族の基本的な機能とそれを支える家庭の内外における活動があることについて理解し、家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解させる。	望ましい家族のあり方を考え、家族の一員としての自覚を持ち、役割を果たせるようにする。【個人の尊重】【女性】
	特別活動	「新しい大陸に向けた航海」◎	人権の概念とその重要性について、体験的に理解を深め、人権を尊重しようとする意欲・態度を養う。また、人権が尊重される社会を築いていこうとする実践力を養う。	自分及び全ての他者をかけがえのない存在として尊重しようとする態度の育成を図る。【人間の尊厳】【価値の尊重】
5	道徳	「山寺のびわの実」	相手の立場や考えを尊重し、謙虚な広い心で他に学ぼうとする態度を育成する。	それぞれの個性を尊重し、広い心で他に学び、自己の向上に生かしていく態度を育てる。【個人の尊重】
	特別活動	体育祭に向けて	練習や応援などの様々な場面で個々の力を結集し、集団としての向上を図り、クラスの協力と団結を強め、クラスへの所属感を高揚させる。	それぞれの立場を尊重し、クラスの全員と協力してより良い体育祭の実現に向け努力できるようにする。【個人の尊重】
6	社会	わたしたちの生活と現代社会◎	社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。	公平・公正についての感覚や認識を深めさせるとともに、それらを尊重し、実現させようとする態度を育成する。【公平・公正】
9	特別活動	けやき祭に向けて	学年やクラスで仲間とともに文化的な取組をする中で、自らの興味・関心を見つけ出し、仲間とともに作り上げていく喜びを感じさせる。	それぞれの立場を理解するとともに、自分の役割を果たし、クラスの一員であることを自覚する。【個人の尊重】
	社会	人間の尊重と日本国憲法「人権と共生社会」	日本国家法に定められている基本的人権の種類やその内容を、具体的事例を通して理解させるとともに、差別の実態について知り、その解消に向けてどのような取組が行われているかを理解させる。	今日の日本社会にもさまざまな差別が残っていることを知り、それらの差別解消のために何が必要か考える。【各人権課題】
	道徳	「もっとも悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく」	どの国の人々も同じ人間として尊重し、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を培う。	温かい人間愛の精神を育み、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつようにする。【外国人】
	特別活動	ちがいのちがい ○人権感覚育成プログラム9-③	男女の人権に関わる問題への気付きや認識を促進し、男女が協力してより良い社会を築いていこうとする意欲や態度を育てる。	男女平等、男女共同参画社会の実現のために、男女の人権をめぐる問題への関心を　て、健全な異性観や男女平等観を養う。【女性】
10	道徳	「卒業文集最後の二行」＊	いじめの愚かさを知り、差別、偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない態度を育成する。	誰に対しても公平・公正に接して、差別や偏見のない、より良い社会の実現に尽くす。【人権全般】
	特別活動	合唱祭に向けて	合唱を通して、クラスの団結力や絆を深め、合唱の楽しさや気持ちを合わせていく喜びを実感させ、集団としての力を向上させる。	練習の中で、人の良いところを見つけ学ぶとともに、団結して良い合唱を作り上げるために努力する。【個人の尊重】
	社会	現代の民主政治と社会「裁判の種類と人権」	裁判の仕組みを学ぶことを通して、裁判によって人権侵害が救済されていることや、裁判によってもなお様々な人権問題が解決されない現状について理解を深めさせる。	裁判における人権保障の例を通して、様々な人権侵害の救済があることに気付き、裁判の役割について理解を深める。【その他の人権問題】
11	道徳	「アイツの進路選択」	異性に対する正しい理解を深め、それぞれの良さを認めながら互いに高めようとする態度を育成する。	異性に対して理解を深め、人格を尊重し、向上を目指す気持ちの大切さに気付く。【女性】【個人の尊重】
12	道徳	「ドナーカード」	決して軽々しく扱うべきでない生命の尊さを深く自覚し、自他の生命を尊重する態度を育てる。	臓器移植に関連して生命の大切さに気付き、自他の生命を尊重する態度を育成する。【個人の尊重】
	社会	私たちのくらしと経済「国民生活と福祉」	国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。	少子高齢社会において、福祉制度の維持が財政的には厳しいことを知り、福祉と財政の両面から考えることで、人権問題についての実践的な力を養う。【高齢者】
1	社会	地域社会とわたしたち「国際問題とわたしたち」	人類の福祉の増大を図り、より良い社会を築いていくために解決すべき問題としてどのようなものがあるか考えさせる。	先進国と発展途上国との経済格差とそこから発生するさまざまな問題を学び、地球市民としてすべての人々の人権を守るために何ができるかを考える。【外国人】
2	道徳	「心がひとつに」	学校に所属する一員としての自覚を深め、皆と協力し、より良い校風を築こうとする心情を育てる。	自分の属する集団の意識を理解し、人間関係を大切にして励まし合う関係をつくる。【個人の尊重】

第1章 第2章事例編 小学校低学年のプログラム 小学校高学年のプログラム 小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 中学校のプログラム 中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画 高等学校等のプログラム 高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画 プログラムの活用対応表

高等学校等第３学年
（政治・経済）

地域紛争～パレスチナ問題～

ねらい

ヨルダン川西岸から地中海沿岸までの地域をパレスチナとよぶ。この地域では、ユダヤ教を信仰するユダヤ人と、イスラム教を信仰するアラブ人が、領土をめぐって長い間争っている。異なる立場について考えさせることで、「共感と連帯感」「多様性の尊重・共生」の視点から人権感覚を育む。

◆◆関連する視点◆◆
共感と連帯感
多様性の尊重・共生
◆◆準備するもの◆◆
筆記用具・課題解決シート
付箋紙（２色）

アクティビティーの実際

導　入（10分）

アイスブレーキングによるグループ分け
※各自に好きな動物の絵を描かせ、同じ動物（種など）でグループ作りをする。
＜やり方＞
① 各自に動物の絵を描かせる。
② 描いた絵を皆で見せ合い、同じ動物（種など）同士のグループを作る。
動物の種類が偏った場合、その色・模様などの特徴でさらに分かれ、班の人数がなるべく偏らないように工夫するよう伝えておく。
③ 各グループに分かれてグループ名を命名する。

展　開（30分）

地域紛争の歴史的経緯を知り、それぞれの立場に立った文章をつくる。
① 歴史的経緯を読む。分からない語句について、巡回する教師に教えてもらう。教師は、その都度その質問と回答について他の生徒にも伝える。
② ユダヤ人の立場に立って、自分たちの考えが正しいという文章を作る。
③ アラブ人の立場に立って、自分たちの考えが正しいという文章を作る。
④ それぞれを記入した付箋紙を、模造紙に全て張り出す。
⑤ カードによる分類法を用いて、内容を分類し、協議してそれぞれの分類にタイトルを付け、模造紙に書き込む。最も説得力のあるグループを２つ選び、それぞれから一文ずつ文章を選ぶ。（協議して作ってもよい）
⑥ グループごとにユダヤ人、アラブ人双方の立場からの文章（合計４文）を発表する。

ふり返り（10分）

ふり返り
① 「ふり返りシート」を配布し、自分のグループが選んだ文章とその理由、自分で最もよいと思った他のグループの文章とその感想を記入するよう指示する。
② 「ふり返りシート」への記入などを通して、ユダヤ人、アラブ人双方の主張を踏まえつつ、どうすれば互いの立場を認め合えるか考える。
③ まとめとして、国連が発足した経緯なども踏まえ、人権の尊重と、多様性の尊重や共生について考えるきっかけにする。

資料　地域紛争～パレスチナ問題～

歴史的経緯

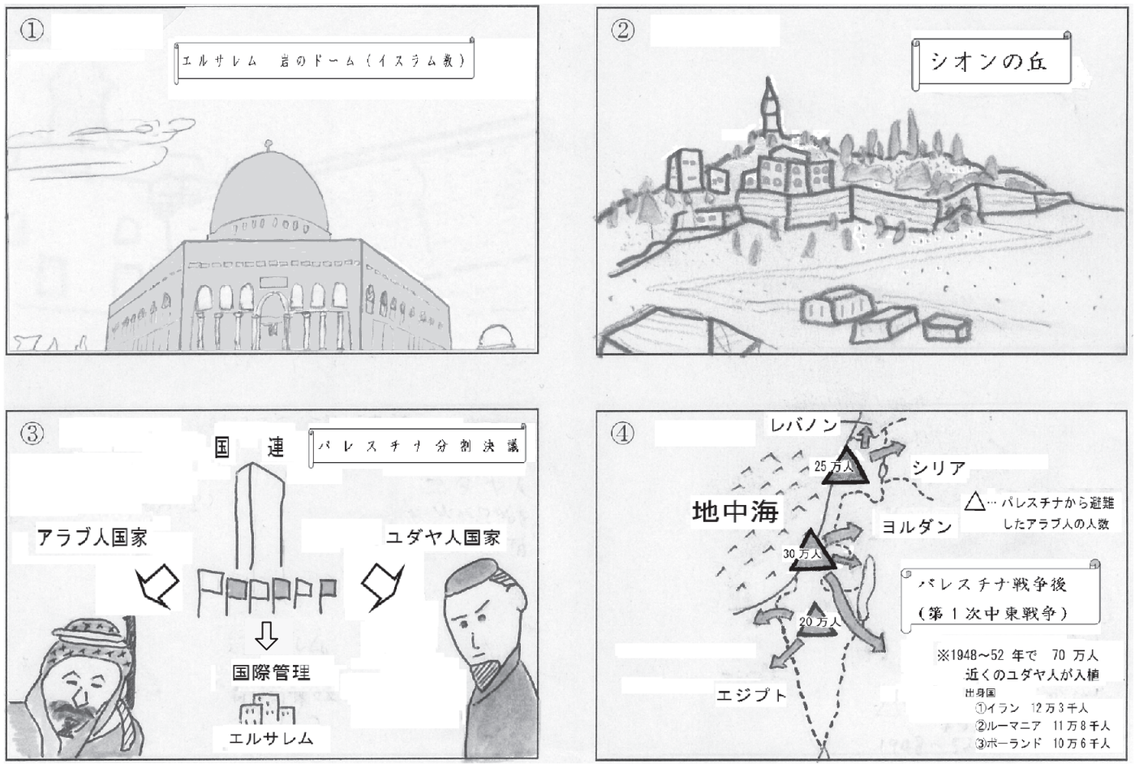
① この地にはかつてユダヤ人の王国があった。紀元１世紀にローマ帝国に敗れて以来、ユダヤ人は統一した国家を持たず、その多くがヨーロッパを中心に世界各国へ移住して離散した。その後、パレスチナはイスラム教徒の住む土地となった。

② 19 世紀末になると、パレスチナへの帰郷を望むシオニズム運動が盛り上がった。こうした動きを利用したのがイギリスであった。第一次世界大戦当時、イギリスは、オスマン帝国との戦いで自国が優位に立つために、アラブ人に対してオスマン帝国への武装蜂起を呼びかけ、この地域の独立を認めた。一方、ユダヤ人に対しては、ユダヤ人国家の建設を支持する書簡を出し、資金援助を得ることに成功した。つまり、アラブ人とユダヤ人双方に、戦後のパレスチナにおける国家建設を約束したのである。

③ 1947 年に国連で、パレスチナを「ユダヤ人国家」と「アラブ人国家」に分けてそれぞれ独立させる『パレスチナ分割決議』が採択された。アラブ人は、国外から移住してきたユダヤ人のためにパレスチナを分割することに断固反対した。

④ 1948 年 5 月 14 日、イスラエルの独立が宣言された 。追い出されたパレスチナ人と周辺アラブ諸国は、翌日、イスラエルの壊滅と原状回復を目指してイスラエルを攻撃した。勝利が予想されたアラブ側は内部分裂によって実力を発揮できず、イスラエルは人口の１%が戦死しながらも勝利した。その後の戦闘によって、イスラエルは占領地を拡大してきた。

1948 年の時点でパレスチナの地に住んでいた 70～80 万人のアラブ人などがいわゆるパレスチナ難民となった。



①「地域紛争～パレスチナ問題～」（第３学年）　【政治・経済】

ふり返りシート　地域紛争～パレスチナ問題～

（１）ユダヤ人の立場に立って作った、自分たちが正しいという文章とその理由をグループで考え、下に書きましょう。

タイトル	文章	理由

このワークシートのねらい（教員用）　グループで意見をまとめる過程で自分たちの正当性を考えさせることにより、共感と連帯感の視点から人権感覚を育む。文章は、一人一人が大きめの付箋紙に記入し模造紙に貼る。「〇〇〇は・が△△△だから（私たちが正しい。）」となるよう統一する。グループ分けのタイトルの参考例…「歴史」「周辺のアラブ諸国」「犠牲」「生活」「資金」「国連」等。このタイトルは、生徒が自由に決めてよい。後で各生徒に、全体で最も説得力のある文章を選ばせることを伝える。

（２）アラブ人の立場に立って作った、自分たちが正しいという文章とその理由をグループで考え、下に書きましょう。

タイトル	文章

文章の参考例
- この地はかつてユダヤ人の王国があったから。（歴史）
- ユダヤ人は自分たちの国家を建設するために、第一次世界大戦中にイギリスに資金援助をしたから。（資金）
- イスラエルの独立は、人口の 1%もの犠牲の上に勝ち取られたから。（犠牲）
- イギリスがアラブ人に独立を約束したから。（歴史）
- イスラエルの占領や入植は、アラブ人の生活を苦しめているから。（生活）
- 周辺のアラブ諸国がパレスチナを支持しているから（周辺諸国）

（３）他のグループの文章で、最もよいと思った文章を一つずつ選んで、その感想とともに下に書きましょう。

ユダヤ人の立場に立って作った文章

タイトル	文章	感想

このワークシートのねらい（教員用）　他のグループの意見を聞き、様々なまとめ方があることを知ることで、多様性の尊重の視点から人権感覚を育む。

アラブ人の立場に立って作った文章

タイトル	文章	感想

このワークシートのねらい（教員用）　お互いの立場を認め合うという解決策を話し合うことで、共生の視点から人権感覚を育む。また、外国人の人権について考えるきっかけとしてもよい。

（４）模造紙にまとめる作業を通して、それぞれ考え方の違いや共通点について、話し合いましょう。また、どうすればお互いの立場を認め合えるかを考えましょう。

高等学校等第１学年
（保健体育科）

男女共同参画の視点に立ったルール決め

ねらい

生徒の日常の言動の中には、性別による固定的な役割分担意識がしばしば見られる。男女平等、男女共同参画社会の実現のためには、日頃から男女の人権をめぐる問題への関心を育て、健全な異性観や男女平等観を養うことが大切である。

そこで、仲間とのコミュニケーションをとり、ラリーが続けられるようにすることをねらいとするバレーボールの授業を通して、男女平等や男女共同参画の大切さに気付き、その実現に努めようとする意識や態度を育むとともに、合意形成や多様性を尊重する意識を育てる。

◆◆関連する視点◆◆

参加・参画　共感と連帯感
コミュニケーション能力
多様性の尊重・共生

◆◆準備するもの◆◆

バレーボール　ネット　支柱　笛
フラッグ　得点板　記録用紙　筆記具

アクティビティーの実際

導　入（15分）

アイスブレーキング

男女の身体的、体力的差異を十分理解し、ネットの高さなどのルールを決定する。

＜やり方＞

① 今までのサーブ･スパイク・ネット越しのパス練習を参考に、ネットの高さを、２ｍ～２.３ｍの幅の中から自分たちで設定する。

② ルールの設定　男女間での制限等を設けるか。（例　アンダーサーブのみ使用可のように制限を設けるか）

展　開（25分）

グループ編成とゲーム

前回の授業までの流れから、チーム編成に偏りがなく、チームとして機能しゲームが成立するようにチームの編成をさせる。

① 今までの授業を通して中心となりそうな生徒を決定し、その生徒を中心にゲームを運営する上で全員が楽しめるようにチームの編成をする。（チーム決定の要素：男女　経験　体力　身長など）

② チーム決定後は、各チームに分かれ、チームが機能するようにポジションの決定や、チームの目標等を確認する。

③ ゲーム活動や試合を通してコミュニケーションのための声かけを大事にするため、声かけの有無による違いを考えさせてから開始する。

ふり返り（10分）

ふり返り

今日の授業をふり返り、ルール設定やチーム人員構成、各チームのポジションなど、より良い男女の参加・参画になっていたか確認させる。

○ チームごとにふり返り活動をさせる。自分の感想と他者の感想を比較し、他者の考えに対する理解を深める。また、チームをよりよい方向へ導くため、自分自身が努力しようと思うことについてふり返る。

②「男女共同参画の視点に立ったルール決め」（第１学年）【 保健体育科 】

授業展開例

段階	学習活動・学習内容	○教師の働きかけ　◆評価　◎人権教育上の配慮
導入 15分	※ボール　ネット等のコート準備は休み時間中に始める。 1　集合　挨拶　点呼 2　ランニング（コート３～５周） 3　準備運動　柔軟体操 4　補強運動（馬とび　腹筋　背筋　両足とび　腕立て伏せ　各 10 回）	○休み時間中に準備を始めるが、事故のないように安全面に注意して準備させる。 ○健康観察　欠席確認　見学者への指示を行う。 ○全員が準備体操等を行っているか観察する。 ○けがを防止し安全に活動するための準備体操と補強運動であることを理解させる。 ○本時の学習のねらいと、内容、流れを説明する。
展開 25分	5　ルールの確認 ネットの高さや技能の制限など	○自分たちで話し合い、ネットの高さを決める。 実際の競技の高さをヒントとして提示する。 小学生２００ｃｍ 中学生（男子）２３０ｃｍ （女子）２１５ｃｍ 高校生（男子）２４０ｃｍ （女子）２２０ｃｍ
	6　チーム編成 １チーム６人で３チームを編成する。リーダーを中心にチームの戦力が均衡になるようにチームの編成をする。（男女、身長、運動経験など）	◎男女　経験　身長　体力などが技能に関わることを伝えて考えさせる。 ◎サーブやスパイクなど制限を入れる必要があるか相談させる。（毎時間のふり返りの中で必要があれば変更できることを伝えておく。） ○中心になりそうな生徒をリーダーにして、戦力が均等になるようにチーム編成を促す。 ◎男女　経験　体力　身長　積極性などが大きくチームの要素に関わることを伝えて考えさせる。 ◆仲間と協力してチーム編成ができる。　【意】
	7　対人パス チームメイトと２人組をつくる。 ・オーバーパス ・アンダーパス	○チームの中で２人組をつくり、対人パスをさせる。 ・オーバーパス ・アンダーパス ・オーバーパスとアンダーパスの両方 ◆お互いで個人技術について話ができる。【知】 ◆お互いでコミュニケーションをとりながらパスを続けることができる。【技】
	8　対人レシーブ 一人がコーチ役になり、ボールを出す。	○２人組の一人がコーチ役になり様々なボールを相手に返球させる。 ◆対人レシーブの技術を使い、状況に応じて返球することができる。【技】

	9　チームパス ６人で協力してパスを続ける。 ３人対３人でネット越しにパスを続ける。ネットの半分（コートの半分）を使用する。 10　パスゲーム ネットを挟み、６人対６人のパスゲーム ・ スパイク等なし ・ ３回以内に返す ・ ラリーポイント７点先取	○６人でコミュニケーションをとりながらできるだけパスを続けさせる。 （人数が多い時は特にコミュニケーションを大事にさせる。） ○ネットを挟み、相手チームをつけ、スパイク等のないパスゲームを実施する。 ○試合のないチームに審判と線審、得点を担当させる。
まとめ10分	11　用具等の片付け 12　整理運動 13　本時のまとめ　課題の整理 次時の予告 14　挨拶	○協力して片付けに取り組ませる。 ○整理体操で健康観察 ○ふり返り（ルール設定やチームの人員構成、各チームのポジションなどがよりよい男女の参加・参画になっていたか、チームの方向性に沿って今後努力しようと思うことは何か考える。） ○各チームの課題と次回の授業でのアドバイスを行う。

高等学校等　人権教育全体計画（例）

日本国憲法
教育基本法
人権教育及び啓発の推進に関する法律

埼玉県人権施策推進指針
埼玉県教育振興基本計画
埼玉県人権教育推進プラン

学校教育目標

日本国憲法及び教育基本法の精神により、人格の完成をめざし、平和的・民主的な国家・社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊重し、自主的精神に満ちた心身共に健康な国民を育成する。

人権教育目標

1　全教育活動を通じて、お互いを尊重し個性を認め合う心、正義感や公正さを重んじる心など、豊かな人間性を育て、人権が尊重される社会の実現を目指す。
2　自分の大切さとともに、他の大切さを認めることができるような意識、意欲、態度の育成を図り、それが様々な人権問題を解決しようとする具体的な態度や行動に現れるようにする。

指導の重点・努力点

1　各教科、特別活動、総合的な学習の時間などの連携により、人権教育を計画的に実施し人権問題の正しい理解を図る。
2　人間の在り方生き方教育と関連付けて、人権問題の解決に向け地域社会に「発信する」「行動する」ことに重点を置く。
3　職員研修を充実させ、職員自らが確かな人権感覚を身に付け、共通理解のもとに人権教育を推進する。

学年目標

1年	2年	3年
・やさしさや思いやりの心、他者の痛みを理解できる豊かな心を育てる。 ・身近にある様々な人権問題に関する理解を深め、人権を尊重する態度を育てる。	・人権に対する歴史や現状を学習し、人権問題の理解を図る。 ・体験学習・交流及び共同学習を通して主体的に取り組もうとする態度を育てる。	・自己の在り方生き方を考察させる中で、自他の人権を尊重し合う共生社会の実現に向けた実践的態度を育てる。

各教科　特別活動（LHR・学校行事）　総合的な学習の時間

全教育活動

○教育活動全体を通じた感性や人権感覚の育成
○生徒理解と教育相談の充実
○ボランティア体験活動、自然体験活動、様々な人達との交流活動の充実
○家庭・地域との連携

各人権課題への取組

女　　性：性別に基づく固定的な役割分担意識を是正し、人権尊重を基盤とした男女平等観を育成する。

子 ど も：子どもを一人の人格として尊重し、社会の中で果たす義務や自己責任について理解させる。

高 齢 者：高齢社会に関する基礎的理解や介護・福祉などの課題に関する理解を深めさせるとともに、高齢者に対する尊敬や感謝の心を育てる。

障 害 者：ノーマライゼーションの理念を自らの生き方に取り入れ、同じ社会を構成する一員であるという意識を身に付けさせる。

同和問題：同和問題を正しく理解し、部落差別をなくしていく実践力を身に付けさせる。

外 国 人：国際化の著しい進展を踏まえ、異文化を尊重する意識を育て、異なる文化を有する人々との共生社会の実現に向けた実践的態度を身に付けさせる。

そ の 他：情報モラル教育、法教育をはじめとした様々な人権問題を学習させることにより、全ての人々の人権が尊重された社会の実現に向けた実践的態度を身に付けさせる。

関連を図る取組	男女平等教育、ボランティア・福祉教育、特別支援教育、交流及び共同学習、健康教育、国際理解教育、情報教育

高等学校等第1学年　年間指導計画（例）

◎人権感覚育成プログラム増補版【新規】
○平成２０年版人権感覚育成プログラム
＊人権教育資料「指導実践の手引」（平成２２年３月）

月	教科等	主題・題材名・活動	目　　標	人権教育上の視点
4	LHR	「シールで仲間」 ○人権感覚育成プログラム4－④	非言語コミュニケーションのみで仲間をつくる活動を通して、共通目的のために協力することや互いに共感や連帯感をいだくことの重要性を認識し、大切にしようとする態度を育てる。	パソコンや携帯電話の機器の普及や、それへの依存等により、他者との直接的な対話やコミュニケーションが希薄になりがちであるため、人間生活における共感、連帯感の意義を認識するとともに尊重する態度を養う。【人間関係づくり】
5	現代社会	現代の民主政治と政治参加の意義	日本国憲法の基本的人権の尊重を通して、差別の非合理性について理解を深める。	日本国憲法を学習する中で基本的人権の保障の充実、発展から部落差別の非合理性について理解し、差別をなくす意欲と実践力を育てる。【同和問題】
6	現代社会	個人の尊重と法の支配＊	基本的人権の尊重について、身近な男女平等の観点から理解を深める。	男女共同参画について、性別に基づく固定的な役割分担意識の問題点や、DVについての理解を深める。【女性】
	家庭基礎	「あなたの大切なものは？－就職編－」 ○人権感覚育成プログラム6－④	自立した生活を営むためには様々な生活課題に対応して適切な意思決定と責任ある行動が重要であることの理解を深める。	価値観などの多様性を尊重し共生するための態度などを養う。職業選択や仕事と生活の調和についての様々な考え方を知るとともに、自分の意見を論理的に主張することを学ぶ。 【多様性の尊重・共生】
	総合的な学習の時間	男女平等について社会的性別（ジェンダー）に気付こう～ ○人権感覚育成プログラム9－④	男女共同参画社会の実現に向けて、共に協力し合う社会を築こうとする意識や態度を育てる。	家庭における男女の役割をめぐるロールプレイを通して、社会的性別（ジェンダー）の本質やそれに基づく諸問題への気付きや認識を促進させる。【女性】
7	LHR	人権講演会	共生社会の必要性について理解する。	障害のある方の講演を聞くことで、相手を思いやることの素晴らしさと共生社会実現の意識を育てる。【障害者】
9	総合的な学習の時間	インターネット上における人権侵害	インターネット上のいじめや嫌がらせ等のネットトラブルの問題点を整理し、情報モラルを理解させる。	インターネットの利用法、ルールについて正しく理解する。インターネット上の人権侵害やいじめを許さない態度を育てる。 【インターネットによる人権侵害】
	家庭基礎	高齢者の生活	高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。	高齢者が社会の一員として、その人権を尊重され、住み慣れた地域で生き甲斐を持って、安心して生活できる社会を構築する責任があることを学ぶ。【高齢者】
10	総合的な学習の時間	様々な人権課題についての班別調べ学習（課題設定と調査）	発表を通して様々な人権課題を自己の主体的な問題としてとらえ、理解を深める。	主題学習へ主体的に参加することで、女性、子供、高齢者、障害者、同和問題、外国人、その他様々な人権課題について関心を深めることができるようにする。【各人権課題】
11	総合的な学習の時間	様々な人権課題についての班別調べ学習（発表）	発表を通して人権課題を整理し、体系的に理解する。	文化祭に「人権学習コーナー」を設け、発表の様子を動画で提示し、資料を掲示することで、各人権課題についての理解を深めることができるようにする。【各人権課題】
12	現代社会（他学年では政経）	国際社会の動向と日本の果たすべき役割 ◎地域紛争～パレスチナ問題～	人種・民族問題を取り上げ、文化や宗教の多様性について触れ、それぞれ固有の文化などを尊重する寛容の態度を養う。	民族・宗教が異なるユダヤ人とパレスチナ人が領土をめぐって争っていることを理解し、異なる立場について双方から考えさせる。 【共感と連帯感】
1	LHR（他学年では倫理）	あなたならどうする？ ～臓器移植～ ○人権感覚育成プログラム2－④	臓器移植をめぐるロールプレイを通して生命の大切さを自覚する。	自他の生命を尊重する態度、互いに支え合って生きる認識を育てる。【生命尊重】

人権感覚育成プログラム（学校教育編）

活用対応表

第1章
第2章 事例編
小学校低学年のプログラム
小学校高学年のプログラム
小学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
中学校のプログラム
中学校における人権教育全体計画及び年間指導計画
高等学校等のプログラム
高等学校等における人権教育全体計画及び年間指導計画
プログラムの活用対応表

各学校においては、下の活用対応表を参考に、教科等の全体計画や年間指導計画に人権教育の視点を位置付けて取り組むこと。

小学校

学年・教科	教材名・視点	人権感覚育成のため、教科で活用する際のアドバイス
小学校１年生 生活	「いのち」ってあたたかい！ ２－① 生命尊重	小動物とのふれあい、鼓動やぬくもりを感じとる体験を通して、生命あることの喜びを見いだし、自他ともに生命を尊重する心情や態度を育てることができる。自分の遊びたい感情ではなく、どうしたら動物が喜ぶか考えたり、観察したりして発見できる場を設定する。
小学校１年生 生活 道徳	「まかせて！　やってみるよ！さいごまで」 ８－①権利と責任	家庭で手伝える仕事を見直し、自分ができると思う仕事を保護者と一緒に取り組む活動を通して、自分の役割に責任を持って果たそうとする態度を育成する。保護者と一緒に仕事体験をするため、事前に学習のねらいについて、学年・学級だより等で保護者に通知し、協力を依頼しておくことが大切である。
小学校２年生 生活 **【新規】**	「１年生を　むかえよう」 コミュニケーション能力	２年生にとって、１年生が安心して学校生活を送ることができるように何ができるのかを考えさせる大切な時期である。どんな態度であいさつや自己紹介をすれば、お互いの気持ちが良いのかロールプレイを通して体験させ、伝え合い、分かり合えるためのコミュニケーション能力の基礎を育てる。
小学校２年生 生活	「こんなお話　ないかな」 １－①人間の尊厳・価値の尊重	「一人の泣いている子どもと周りを囲む子どもの絵」を見て、子どもたちが「お話づくり」をすることによって、自分たちの生活や自分自身を振りかえることができる。誰もが大切な人間であり、自分自身や友だちを大切にしようとする態度を育むことができる。
小学校２年生 生活	「じぶん　たんけん みらいの　じぶんへ」 ３－①自己尊重の感情	自分の成長を支えてくれた人々の自分に対する思いや願いにふれる活動を通して、自分を大切にできる感情を育てていく。保護者や関係機関に指導のねらいを周知し、協力を依頼しておくとともに、一人親家庭や施設等から登校している児童に対して配慮することが大切である。
小学校２年生 生活 特別活動	「みんなが楽しめる　ゲームを考えよう」 ５－①公平・公正	みんなが楽しむことができるゲームのルールや内容を考える活動を通して、公正・公平の大切さに気付かせていく。みんなで考えたゲームを実践し、ふり返る活動を通して、みんなが楽しく遊ぶためには、公正・公平が必要であることを理解できるようにする。
小学校３年生 道徳	「自分の考えを伝えよう」 ７－①多様性の尊重・共生	児童にとって身近な学校や学級の中で起こりがちな場面についてのロールプレイを通して、自分の思いをわかりやすく伝えることの大切さに気付かせる。ロールプレイを行う場合は、交替で演技を行い、相手の立場に立たせることにより、相手を理解する態度の育成につなげていく。
小学校４年生 社会	「ごみ」から学ぼう！ ８－②権利と責任	ごみ処理施設見学や身近なごみ集積所を見学するなど、「廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」の学習と関連付けて実施し、ゴミを減らすために自分ができることを考え、家庭や地域社会の一員としての責任を果たそうとする態度を育む効果が期待できる。
小学校５年生 国語 **【新規】**	「話し合うために大切な言葉（対立と協調）」 コミュニケーション能力	児童の経験に正対することや、協調的な話合い活動を通して、より良い人間関係の形成や、児童一人一人の自己表現力を育てる。また、対立の解決方法を見出そうとする気持ちを育てる。
小学校５年生 家庭 **【新規】**	「家庭内の男女共同参画とは」 参加・参画	家庭における、自分や家族を支える仕事について関心を持ち、主体的に家族に協力する意欲や態度を育む。また、性別による役割分担意識に気付き、共に参加・参画し合う男女共同参画社会の実現に向けて考えさせる。
小学校６年生 社会 総合的な 学習の時間	「心でわかり合おう」 ６－②多様性の尊重・共生	外国の人々の生活習慣、ものの考え方や文化について学び、外国の人々と実際に出会い、話を聞き、活動を共にすることを通して、お互いを尊重し合い、共生しようとする態度を育てる。社会科では、「我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子」に位置付けることが可能である。また、総合的な学習の時間では、国際理解などの横断的、総合的な課題についての探求的な学習となるよう工夫する。
小学校６年生 社会 特別活動	「だれもが安心してくらせるまち」 ９－②参加・参画	社会的事象を具体的に調査し考える。国民生活には、高齢者や障害者のための福祉政策などで、地方公共団体や国の政治の動きが反映していることを学習する。そのことを通して、よりよい社会の実現に参加・参画していこうとする態度を育てる。
小学校６年生 道徳	「生きているって　すばらしい」 ２－②生命尊重	写真やイラスト、文章などを用いて、生まれた頃の自分を見つめる活動を通して、自らの生命を大切にすることや、他者の生命を尊重する態度を育成する。自己の成長の様子を表現し、話し合う活動などを通して、生命がかけがえのないものであることに気付く。読み物資料を扱った授業と関連させて実施することも可能である。

中学校

学年・教科	教材名・視点	人権感覚育成のため、教科で活用する際のアドバイス
中学校１年生 特別活動 中学校３年生 社会 （公民的分野）	「ノーマライゼーション社会の実現を目指して～障害者との共生～」 ４－③共感と連帯感	様々な障害者の生活を知ることを通して、偏見や差別を許さない態度を身に付ける。実際に身近な道路や建物を見て歩き、自分たちの学校や町にも興味・関心が向けられるようにすると、より理解が深まる。
中学校１年生 特別活動 中学校３年生 社会 （公民的分野）	「公平ってどんなこと？」 ５－③公平・公正	自分たちが生活する中で感じる障壁を見つけ、自らが自発的に障壁を取り除く解決方法を探れるような授業展開とする。状況カードに多様な価値観が問われるような写真を用いることもできる。
中学校３年生 社会 （公民的分野） **【新規】**	「マンション耐震化工事費用負担の割合、どうする？」 共感・連帯感	相手の考えを聞き、相手の立場や心情を踏まえた意見を主張し合って、お互いに納得した結論を出すことが可能である。意見がまとまっても、まとまらなくても、積極的に人間関係を築き協力しようとする態度を育成していくことにより、共感・連帯感を高めることができる。
中学校３年生 社会 （公民的分野） 特別活動 総合的な 学習の時間	「ちがいのちがい～男女共同参画社会について考える～」 ９－③参加・参画	日常的によくある場面を用いると効果的である。人権教育ファシリテーターは、性別で役割を決定されたり、行動を制約されたりせず、だれもが生き生きと生きるためには、お互いに思いやり、認め合い、尊重しあうことが大切であることを伝えたい。
中学校３年生 数学 **【新規】**	「缶のまわりの長さを求めよう」 コミュニケーション能力	自分の考えをまとめ、表現することや、相手の考えや言動を聞き取り、自分の考えと比較することで、積極的に人間関係を築き協力しようとするコミュニケーション能力を育成していくとともに、多様性の尊重・共生の視点を育むことができる。中学1年では文字と式の応用として、中学２年では１次関数の応用として扱うことができる。
中学校３年生 理科	「バッタとカマキリ　どっちの命が大切？」 ２－③生命尊重	様々な生物にそれぞれ特徴があり、お互いに関わりあうことで生命がつながっていくことをロールプレイを通して考えることで、自他の生命を尊重する態度を育てたい。中学２年では動物の仲間の単元で、中学３年では生物と環境の単元で扱うことができる。
中学校３年生 特別活動	「いいところ探偵」 ３－③自己尊重の感情	自分自身にどのような良いところがあるかを自覚し、自分を大切に思うことが他者の尊重につながることに気付くことができる。また、自己開示によって、プライバシーに関わる話題が出ることも予想されるので、事前に守秘義務厳守を伝えておく。
中学校３年生 社会 （公民的分野） 特別活動	「人権とは？」 ８－③権利と責任	自分の人権だけでなく、他の人の人権の大切さに気付くことが重要である。気付かないうちに、他の人の存在をないがしろにしてしまうこともありえることをふり返らせる。

高等学校等

学年・教科	教材名・視点	人権感覚育成のため、教科で活用する際のアドバイス
高等学校１年生 現代社会	「新聞記事から探す人権」 １－④人間の尊厳・価値の尊重	新聞記事の切り抜き、感想の記入、発表等は、人権教育に限らず地歴、公民、国語等の教科・科目で行う事ができる。この授業を皮切りに、年間を通して継続する取組とし、生徒の読解力・記述力・表現力などを高めることもできる。
高等学校１年生 現代社会 高等学校３年生 特別活動	「一歩前へ進め」 ５－④公平・公正	役割カードを用いたロールプレイのアクティビティーだが、生徒の想像力や判断力を用いる点が特徴である。社会における不公平や不公正に気付かせることで、他人の立場や心情を感知するための想像力や感受性を育む。現代社会の諸課題を扱う単元の導入や、ふり返りの授業に適しており、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて体験的に理解することができる。
高等学校１年生 総合的な 学習の時間 高等学校３年生 倫理	「あなたならどうする？ ～臓器移植～」 ２－④生命尊重	オープンエンドな授業展開が必要な場合に活用できる。グループによる調べ学習、話合い、ディベート、ロールプレイ等をもとに、受験科目としての倫理に対応する知識まで習得できるほか、生徒自身の提案を採用してクラスや学年の人権教育集会の呼びかけなどの具体的な行動へつなげていくこともできる。
高等学校１年生 家庭基礎 総合的な 学習の時間	「あなたの大切なものは？ －就職編－」 ６－④多様性の尊重・共生	グループでの意思決定プロセスを通して、価値観などの多様性を尊重し、共生するための知識、態度及び技能を身に付ける。具体的には、ライフステージの課題の一つである職業選択、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について様々な考え方を知るとともに、自分の意見を論理的に主張できることが必要であることなどを学習することができる。
高等学校３年生 政治・経済 **【新規】**	「地域紛争～パレスチナ問題～」 共感と連帯感	ヨルダン川西岸から地中海沿岸までのパレスチナと呼ぶ地域を題材として、主に宗教的に対立しているアラブ人とパレスチナ人の異なる立場について、カードによる分類法を用いてグループで協議するなどして、双方の立場から考えさせることで、共感と連帯感や多様性の尊重・共生の視点から人権感覚を育む。
高等学校１年生 保健体育 **【新規】**	「男女共同参画の視点に立ったルール決め」 参加・参画	生徒の日常生活の言動には、性別による役割分担意識がしばしば見受けられる。男女共同参画社会の実現のためには、様々な場面でその大切さに気付くことが大切である。男女合同のチーム作りやルールを設定することを通して、合意形成や多様性の尊重・共生の視点を育むこともできる。

参考文献

・『コンパシート〔羅針盤〕子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』（２００９年）
　ヨーロッパ評議会［企画］ 福田　弘［訳］ 財団法人　人権教育啓発推進センター発行

・『人権教育学習プラン―実践事例集―その４』　（平成２２年度　人権教育資料第３５集
　「明日へのとびら」）和歌山県教育委員会

・『人権教育プログラム（学校教育編）』平成１９年３月　東京都教育委員会

平成24年度　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）作成委員会委員

NO	職名等	氏名	所属	備考
1	座長	秦野　玲子	RE　Learning　代表	
2	校長	當摩真理子	三郷市立立花小学校	委員長
3	教頭	竹内　一博	川越市立寺尾小学校	副委員長 人権教育研究指定校
4	教頭	島村　和広	上里町立上里東小学校	副委員長
5	主幹教諭	江原　新治	鴻巣市立鴻巣北小学校	人権教育研究指定校
6	教諭	武井　祐子	秩父市立西小学校	
7	主幹教諭	林　武嗣	三芳町立東中学校	人権教育総合推進地域
8	教諭	藤川　潤子	朝霞市立朝霞第一中学校	人権教育総合推進地域
9	教諭	大竹　一史	深谷市立深谷中学校	
10	教諭	中里　美佳	加須市立加須北中学校	
11	指導主事	滝田　真人	朝霞市教育委員会	人権教育総合推進地域
12	指導主事	蘇武　伸吾	三芳町教育委員会	人権教育総合推進地域
13	課長補佐 兼指導主事	加藤　修	深谷市教育委員会	人権教育総合推進地域
14	主幹教諭	北尾　和典	県立朝霞西高等学校	人権教育総合推進地域
15	教諭	藤沼　英博	県立伊奈学園総合高等学校	

人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）の作成にあたっては、男女平等教育推進委員会委員の協力をいただいた。

平成24年度　男女平等教育推進委員会委員

NO	職名等	氏　　名	所　　属	備　考
1	顧　問	原田　壽子	立正大学名誉教授	
2	校　長	長原　順子	行田市立埼玉小学校	委員長
3	教　頭	大塚　哲	北本市立南小学校	副委員長
4	教　諭	門倉　正人	美里町立美里中学校	
5	教　諭	福田　啓子	草加市立瀬崎中学校	
6	教　諭	須藤まさ江	東松山市立松山中学校	
7	教　諭	髙橋　操	所沢市立小手指小学校	
8	教　諭	蛭川や寿子	深谷市立桜ヶ丘小学校	
9	教　諭	引間めぐみ	秩父市立荒川西小学校	
10	指導主事	沖田　啓子	越谷市教育委員会	
11	教　諭	森住　明広	県立浦和高等学校	
12	指導主事 兼所員	長谷川彰則	県立総合教育センター	

平成24年度　人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）作成委員会事務局

市町村支援部人権教育課長	須藤　一郎
市町村支援部人権教育課主任指導主事	持田　倫武
市町村支援部人権教育課指導主事	有賀　弘一
市町村支援部人権教育課指導主事	青木　久永
市町村支援部人権教育課指導主事	吉川　英一
市町村支援部人権教育課指導主事	小野川和史

memo

memo

memo

人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）

『自分』『人』　彩発見プログラム

発行年月	平成25年3月
発　　行	埼玉県教育委員会
連　絡　先	埼玉県教育局市町村支援部人権教育課 さいたま市浦和区高砂 3-15-1 TEL　０４８－８３０－６８９５
ホームページ	http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/s17/
印　　刷	有限会社　秀明美術印刷社 埼玉県さいたま市北区本郷町913-1 TEL　０４８－６６３－２４４６